







# User's Manual ユーザーズマニュアル

#### ご注意

- ●このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- ●このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- ●このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- ●このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サ ポートセンターまでご連絡ください。
- ●本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- ●本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負い ません。また、本製品について海外での保守、サポートは行っておりません。
- ●Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商 品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

# このマニュアルの読みかた

# ■このマニュアルを読む前に

NTT等の通信事業者とのISDN回線契約、インターネットサービスプロバイダとの契約を済ませたのち、「スタート ガイド」を読んで、基本的な機器の接続と設定を完了しておいてください。

# このマニュアルの構成

# 基本編

#### Chapter 1 ViA LOOPの機能について知ろう

「スタートガイド」によって、基本的なセットアップが完了したあと、VIA LOOPを使って利用できる機能などについて説明しています。本製品の基本的な接続方法や設定ユーティリティによる基本設定については、「スタートガイド」をお読みください。

# アナログ通信機能設定編

#### Chapter 2 設定ユーティリティを使って登録する

設定ユーティリティを使って、アナログ通信機能を設定する方法を説明しています。構成画面単位で各画面の項目 をリファレンス的に説明しています。意味のわからない項目については、目次および索引を参考に逆引きで調べる と便利です。

#### Chapter 3 アナログ電話機からの設定と使いかた

アナログ電話機を使って、アナログ通信機能を設定する方法とその使いかたを説明しています。機能単位でリファレンス的に説明しています。このマニュアルの8ページにある「アナログ通信機能一覧」を参考に設定したい機能の説明をお読みください。また、目次および索引を参考に逆引きで調べると便利です。

# ルータ機能設定編

# Chapter 4 設定ユーティリティを使って登録する

設定ユーティリティを使って、ルータの応用機能を中心とした各機能の設定方法を説明しています。構成画面単位 で各画面の項目をリファレンス的に説明しています。意味のわからない項目については、目次および索引を参考に 逆引きで調べると便利です。なお、基本機能の設定については、「スタートガイド」をお読みください。

# 付録

# Appendix

コマンドを使った設定方法の概要と正常に動作しないときの対応方法などを説明しています。

# このマニュアルで使われている用語と記号

# ■このマニュアルで使われている用語

本製品	このマニュアルでは、ViA LOOP6010のことを、一部を除いて「本製品」と記述しています。	
選択	このマニュアルでは、マウスの操作やキーボードの操作により、項目やアイコンを選んだ状態をいいます。	
(項目の)オン	このマニュアルでは、チェックボックス□、ラジオボタン□の状態をクリックして ■、 ■ にする操作 をいいます。	
(項目の)オフ	このマニュアルでは、チェックボックス 🗹 、ラジオボタン 🖸 の状態をクリックして 🗖 、 🖸 にする操作 をいいます。	

# ■このマニュアルで使われている記号

記号	意味
<u>注</u> 意 注意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明してます。この注意事項を守らないと、けが や故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
<b>Ö</b> Tips	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
$\uparrow \downarrow$	キーボード上のカーソルキーを表わします。
Enter	キーボード上のEnterキーを表わします。
ג-אב	キーボード上のスペースバーを表わします。
Esc A	その他、キーボード上のキーを表わします。

このマニュアルの読みかた	 	 2
もくじ・・・・・・・・・・・・・・・	 	 4

# 基本編

# **Chapter 1** ViA LOOPの機能について

1.	アナログ通信機能について知ろう ・・・・・・8
	■アナログ機能のおもな内容・・・・・・・・・・8
	■アナログ通信機能の設定方法について・・・・・・14

2.	ルータ機能について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・15
	■ルータ機能のおもな内容・・・・・・・・・・・・・・・・・15
	■ルータ機能の設定方法について・・・・・・・・16

# アナログ通信機能編

# Chapter 2 設定ユーティリティを使って設定する

1.	設定ユーティリティから設定する・・・・・・・・・18
	■設定ユーティリティの役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
	■設定のための画面構成と流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
	■アナログ通信機能設定 画面を表示する ・・・・・・20
2.	アナログ通信の基本機能を設定する・・・・・・・・22
	■基本設定の画面について・・・・・・・・・・・・・・・22
	■基本設定の項目の内容・・・・・・・・・・・・・・・23
	●着信種別 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	●内線呼出ベル ······23
	●発信者番号優先着信 · · · · · · · · · · · · · · · 24
	●識別着信 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	●グローバルセレクト/ダイヤルイン25
	●ナンバーディスプレイ ・・・・・・・・・・26
	●追加呼出遅延(ベル回数)・・・・・・・・・・・27
	●ダイヤル完了タイマ ・・・・・・・・・・・・・・・27
	●ボリューム調整 ・・・・・・・・・・・・・・・27
З.	アナログ通信の応用機能を設定する・・・・・・・・28
	■応用設定の画面について・・・・・・・・・・・・28
	■応用機能の項目の内容・・・・・・・・・・・・・・・・29
	●発信者番号通知 · · · · · · · · · · · · · · · · 29
	●機器種別 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	●フッキング ·····30
	●フッキング代用30
	●切断音制御 ·····30
	●疑似なりわけ ・・・・・・・・・・・・・・・31
	●FAX無鳴動着信 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	●サブアドレス ・・・・・32
	●ベル周波数 ·····32

4.	着信転送機能を設定する・・・・・・・・・・・・33
	■着信転送の設定画面について33
	■着信転送機能の項目の内容・・・・・・・・・・・・・・・34
	●着信転送 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	●転送トーキ ·····35
	●フリー転送35
	●暗証番号 ······36
	●呼出ベル回数 ·····36
5.	コールバック・中継機能を設定する・・・・・・37
	■コールバック・中継機能の画面について・・・・・37
	■コールバック・中継設定機能の項目の内容・・・・38
	●コールバック・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
	●中継許可指定 ······38
	■コールバック・中継相手の電話番号を
	登録する39
6.	短縮ダイヤルを登録する・・・・・・・・・・・・・・・・・40
	■短縮ダイヤルの登録画面について・・・・・40

7. 設定ファイルを転送する・・・・・・・・・・・・42

# アナログ通信機能編

# Chapter 3 アナログ電話機からの設定と使いかた

1.	アナログ電話機から設定する・・・・・・・・・・48 ■電話機から設定するときの操作手順・・・・・・48
2.	<ul> <li>各機能の設定リファレンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
	設定する … 49 ●着信転送設定(着信転送先を登録する)50 ●着信転送設定(着信転送機能の有効/無効)…50 ●着信転送設定(呼出ベル回数を設定する)51 ●着信転送設定(時証番号を登録する)51 ●着信転送設定(暗証番号を登録する)52 ●フリー転送を設定する52 ●追っかけ転送を設定する53 ●着信種別を設定する53 ●着信種別を設定する54
	設定する・・・54 ●サブアドレスを設定する・・・55 ●機器種別を設定する・・・57 ●ダイヤル完了タイマを設定する・・・57 ●通話時のボリュームを調整する・・57 ●追加呼出遅延(ベル回数)を設定する・・・58 ●フッキングを設定する・・・58 ●フッキングを設定する・・・59 ●切断音制御を設定する・・・59 ●切断音制御を設定する・・・59 ●切断音制御を設定する・・・・59 ●説別着信を設定する・・・・60 ●FAX無鳴動着信を設定する・・・60 ●ベル周波数を設定する・・・・61 ●発信者番号優先着信を設定する・・・・61 ●疑似なりわけを設定する・・・・62

З.	アナログ通信機能の使いかた・・・・・・・・・・・・・63
	●電話をかける ·····63
	●短縮ダイヤルで電話をかける
	(短縮ダイヤル)・・・・・63
	●同じ相手にかけ直す(リダイヤル)・・・・・・64
	●内線で話しをする64
	●電話を受ける · · · · · · · · · · · · · · · · · 65
	●外線を内線に取り次ぐ(内線転送)・・・・・・・65
	●コールウェイティングを利用する66
	●通話中の電話を別の相手に転送する
	(通話中転送)・・・・66
	●短縮ダイヤルに登録した相手の
	電話だけを受ける(識別着信)・・・・・67
	<ul> <li>●3人で話す(三者通話)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>
	<ul> <li>● コールバック機能を利用する ······68</li> </ul>
	<ul> <li>● 山 秋米(シン) 感品といれらし</li> <li>● 山 米米能を利用する(山 米許可指定)・・・・・・69</li> </ul>
	<ul> <li>■INSボイスワープ</li> </ul>
	● パンボ イスク シン ダイヤル 0.2パスワード機能を利用する・・・・69
	●たわわけサービフを利用する ···········70
	<ul> <li>●ほうわりう こへを利用する 70</li> <li>●通手巾に電手機を移動する</li> </ul>
	● 煙 四 千 に 电 四 1 次 ご 1 夕 到 9 る ( 诵信 中 機 器 移 動) ・・・・ 7 ()

# ルータ機能編

# Chapter 4 設定ユーティリティを使って設定する

- ルータ機能を使ったシステム構築例・・・・・・・72
   ■ルータを使ったシステムの構築パターン・・・・・72
- 2. 設定ユーティリティから設定する・・・・・・・78
   ■メイン設定メニュー画面を表示する・・・・・・78
   ■設定のための画面構成と流れ・・・・・・81
- 3. 基本機能の設定について ······82

4.	拡張機能を設定する・・・・・83
	■バルク転送の設定・・・・・・・・・・・・・・・83
	■ISDN関連の設定 ······84
	■IPアドレスの設定·····88
	■IPアドレス変換の設定93
	■ルート情報の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・96
	■フィルタリングの設定・・・・・・・・・・・・97
	■DHCPの設定 ·····101
5.	設定情報ファイルを見る ・・・・・・・・・・103
6.	パスワードを変更する ・・・・・・・・・・・104

# Appendix 付

1.	コマンドを利用した設定について ・・・・・・108	
	■telnetを利用する場合 ······108	
	■コンソールポートを利用する場合 ・・・・・109	
2.	設定スイッチについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
З.	LED点灯状態の見かた ・・・・・・・・・・・・113	

録

4. コンソールインターフェースの仕様 ・・・・・・114
3. 9//-//9-EXEDUC
6. 基本仕様 ・・・・・116
索 引

其

編

本

# Chapter 1

# ViA LOOPの機能について

ViA LOOPの持っているアナログ通信機能およびルータ機能にどのような機能があるかを説明します。

1.	アナログ通信機能について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	.8
2.	ルータ機能について知ろう ・・・・・	15

# アナログ通信機能について知ろう

本製品のTEL1/TEL2ポートに接続した機器には、短縮ダイヤルや転送電話機能をはじめとする多彩な機能が あります。これらは、付属の設定ユーティリティで設定できるほか、電話機のダイヤルボタンを使って設定で きます。また、ターミナルソフトを使ってコマンドによる設定も可能です。



本製品を常時接続回線および高速高速ディジタル専用線でご使用になる場合はアナログ通信機能は使えません。

# アナログ機能のおもな内容

# アナログ通信機能一覧

アナログ通信機能を一覧で説明しています。表中の記号の意味については下記の説明をご覧ください。また、 次ページ「各機能の内容について」で、それぞれのアナログ通信機能について、詳しく説明していますので必 要に応じてお読みください。

★ ··· ViA LOOPおすすめの使うと便利なアナログ通信機能です。

😧 …NTTとのオプション機能のサービス契約が必要です。利用料がかかります。

機能名	推奨	NTTとの 契約	機能の内容を 知るには	1-ティリティで 設定するには	電話機から 設定するには	実際に 利用するには
短縮ダイヤル	*		┏ P9	┏ P40	┏ P49	
着信転送		*1	┏ P9	┏ P34		
転送トーキ		¥				
フリー転送	*					
追っかけ転送			┏ P9	┏ P34		
発信者番号通知				┏ P29	┏ P54	
グローバルセレクト					┏ P54	
ダイヤルイン		¥			┏ P54	
サブアドレス	*				<ul><li>● P55</li></ul>	
機器種別						
ダイヤル完了タイマ						
ボリューム調整						
追加呼出遅延(ベル回数)			← P11			
フッキング						
内線呼出ベル				┏ P23		
切断音制御						
識別着信		*2				
ナンバーディスプレイ		¥			┏ P49	
FAX無鳴動着信						
ベル周波数				┏ P32		
発信者番号優先着信						
コールバック	*					┏ P68

機能名	推奨	NTTとの 契約	機能の内容を 知るには	1-ティリティで 設定するには	電話機から 設定するには	実際に 利用するには
中継機能				┏ P38	┏ P69	┏ P69
発信						┏ P63
再ダイヤル						┏ P64
内線通話						┏ P64
着信						┏ P65
内線転送						┏ P65
コールウェイティング	*	<b>%</b> 1				┏ P66
通話中転送	*	<b>%</b> 1				► P66
三者通話	*	<b>%</b> 1	┏ P13			┏ P67
INSボイスワープ		¥				┏ P69
ダイヤルQ2パスワード機能						┏ P69
なりわけサービス		¥				┏ P70
通話中機器移動						
疑似なりわけ	*					

※1 本製品が持つ機能としてご利用の場合は無料です。NTTのフレックスホンサービスなどNTT側の機能を ご利用の場合は、NTTとの契約(有料)が必要です。

※2 相手側が自分の番号を通知できる必要があります。

フレックスホンサービスとは、INSネットの付加サービスです。フレックスホンサービスを利用するには、 NTTとの契約(有料)が必要です。なお、フレックスホンサービスを契約されていない場合でも、本製品が持つ同様の機能(コールウェイティング、通話中転送、着信転送、三者通話のミキシングモード)を利用することができます。ただし、本製品のアナログ通信機能を利用した場合は、次の環境ではこれらの機能を使用することはできません。

・2台以上の電話機やコンピュータを接続している場合

- ・常時接続回線および高速ディジタル専用線を利用している環境
- ・2B(2点同時)接続している場合

# 各機能の内容について

おもなアナログ通信機能の内容を説明しています。

**ユ**····設定ユーティリティでの設定方法の説明ページ

電
…
電話機からの設定方法または利用方法の説明ページ

# ●短縮ダイヤル登録 ユ●P40 置●P49

TELポートごとに短縮ダイヤルを最大40か所まで登録できます。短縮番号の00~09は発信者番号優先着信、20~39はコールバックおよび中継機能対象番号との共用になります。

# 

NTTのフレックスホンサービスの着信転送機能を利用すると、外部からの電話を、指定した相手先にダイレクトに転送することができます。

# ●フリー転送 □●P35 ■●P52

NTTのフレックスホンサービスを契約していなくても、外部からの 電話を、指定した相手先にダイレクトに転送することができます。

# ●追っかけ転送 ユーP34 ■ P52

着信転送、フリー転送で指定した相手が通話中の場合に、別の指定した相手先に転送することができます。

# ●発信者番号通知 □●P29 圍●P54

ISDNでは、同じISDN網にある電話番号から電話がかかれば、相手先の電話番号を知ることができます。一般 回線のナンバーディスプレイサービスとは別のサービスで、ISDNでは標準のサービスです。ただし、相手の番 号がわかるのは同じISDN回線を使用している電話機やISDN網を利用しているPHSに限られます。

# 

本製品のグローバルセレクト機能を使うと、契約者番号(グローバル着 信番号)をダイヤルイン番号のように扱い、特定の通信機器に直接着信 させることもできます。この機能は、TELポートごとに設定します。 本来なら2つのダイヤルインサービス契約をしないとポートごとに固 有の電話番号が割り当てることはできませんが、グローバルセレクト 機能を使うと、ひとつのダイヤルインサービス契約で、TEL1ポート およびTEL2ポートに固有の電話番号を割り当てることができます。



# ●ダイヤルイン ユ●P25 **置**●P54

NTTのダイヤルインサービス(有料)をご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号(ダイヤルイン 番号)を持つことができます。TELポートごとにダイヤルイン番号を設定しておくと、特定のポートに着信させ ることができます。ダイヤルイン番号は自己アドレスとして設定できます。この機能は、TELポートごとに設 定します。





# ●サブアドレス ユーP32 置ーP55

サブアドレスを使うとダイヤルインサービスを利用しなくても、電話 番号に続いてサブアドレスをダイヤルすることで、TEL1または TEL2ポートを区別して着信させることができます。ただし、サブア ドレスが利用できるのは、発信側もINSネット64に加入している必 要があります。一般回線から電話やFAXを受ける場合は、ダイヤルイ ンサービスを利用するほうが便利です。



# ●ダイヤル完了タイマ ユ●P27 圈●P57

ダイヤルを完了したあとに電話機の (象を押すとすぐに発信されますが、 (象を押さなかったときに、何秒待っ て発信するかを設定します。

# ●追加呼出遅延(ベル回数) ユ ●P26 置●P58

TEL2ポートの電話機の着信音や割込音を、TEL1ポートの電話機よりも遅らせて鳴らすことができます。

# ●内線呼出ベル ユーP23 置ーP59

内線からの電話と外線からの電話を区別できるように、内線の電話機 からの着信音を短いサイクルで鳴らすことができます。

# ●識別着信 ユ●P24 置●P60

設定した条件で電話を着信します。TELポート毎に特定の相手からの 電話だけ着信させたり、発信者番号を通知してこない相手からの着信 を拒否することができます。迷惑電話などの防止策にも利用できます。 ただし、一般回線からの発信者番号通知や公衆電話からの通知を受け るにはINSナンバーディスプレイサービスの契約が必要です。また、 INSなりわけの着信通知を受けるにはINSなりわけの契約が必要です。



ViALOOP

HIL.

FILLUL

# ●FAX無鳴動着信 ユーP31 置 ●P60

HLCの通知ができない一般電話からFAXの着信を無鳴動(1300Hz) 着信することができます。この設定をおこなうことで、FAXに着信が あっても呼出音を鳴らさずに済みます。

# ●発信者番号優先着信 ユ●P24 置●P61

特定の相手からの電話をTEL1ポートまたはTEL2ポートに強制的に 着信させることができます。特定の電話でしか受けたくない相手があ る場合、この機能を使うと他の電話機には着信しません。

# ●コールバック ユ●P38 **置**●P68

コールバック機能は、電話をかけてきた相手に自動的に電話をかけ直 す機能です。例えば、携帯電話やPHSから会社に電話をかけたとき、 コールバック機能を使うと通話料金を会社側に負担してもらうことが できます。

# ●中継機能 □ ● P38 2 ● P69

中継機能は、あらかじめ登録されている電話番号から電話がかかって きたとき、あるいは、サブアドレスに中継先電話番号が含まれている 場合に、指定した相手先へ電話を転送する機能です。この機能を使う ことによって、PHSから携帯電話に電話をかけることもできます。 なお、この機能は、発信者側がPHSのような発信者番号通知機能と サブアドレス機能を持つ機器である必要があります。









雷話

# 

ー方のTELポートに接続された電話機から、もう一方のTELポートに 接続された電話機を呼び出して、内線通話をすることができます。

# ●コールウェイティング 置●P66

外線の相手と話しているときに、別の相手から電話がかかってきた場合に、はじめの外線の相手を保留にして、別にかけてきた相手と話す ことができます。

# ●通話中転送 電●P66

外線の相手と話している途中、別の相手に電話をかけて転送することができます。

# 

外線で通話中に、別の相手に電話をかけ、3人で同時に話すことができます。三者通話中は、新たな電話を受けることはできません。

# ●疑似なりわけ ユ●P31 置●P62

NTTのなりわけサービスをご利用されていないかたでも、短縮ダイヤル登録されている相手から着信があった 場合、着信音をなりわけ呼出ベルと同じように鳴らすことができます。設定はTELポートごとに可能です。短 縮ダイヤル登録されている相手からの着信は、通常のベルより短いサイクルで鳴ります。





# アナログ通信機能の設定方法について

アナログ通信機能の設定には、3種類の方法があります。このマニュアルでは、このうち「設定ユーティリティを使った設定方法」と「電話機を使った設定方法」を説明しています。



本製品を常時接続回線および高速高速ディジタル専用線でご使用になる場合はアナログ通信機能は使えません。

# 設定ユーティリティを使って設定する

設定ユーティリティには、アナログ通信機能を設 定する画面があります。この画面で設定した内容 を有効にするには、ファイルとして保存し、保存 したファイルを本製品の本体にデータとして転送 します。機能全体の設定や複雑な機能を設定する ときに便利です。また、設定内容がファイルとし て保存できるので、画面上で確認したり、いくつ もの設定パターンを保存できます。



# 電話機のダイヤルを使って設定する

電話機のダイヤルボタンを使って、アナログ通信機能を設定できます。設定はダイヤルボタンを組み合わせて 押すだけです。一部の機能だけを変更したいときや、特に外出時だけなど、一時的に設定を変更したい場合は、 電話機から設定するのが便利です。設定した内容を有効にするには、最後に保存操作をする必要があります。

# ターミナルソフトを使って設定する

OSに標準であるターミナルソフトなどを使って、コマンドで設定することができます(●P108)。コマンドを 利用すればOSに依存することなくいろいろな機能を設定できます。また、一部の特殊な機能はコマンドでのみ 提供されています。コマンドでの設定の説明はhtmlファイルでリファレンスマニュアルとして提供され、イン ターネットブラウザを利用することで簡単にコマンド機能の詳しい内容を知ることができます。内容について は、製品に添付されたCD-ROMの"command"フォルダにある「Readme.txt」をお読みください。 ルータ機能について知ろう

ViA LOOPで使えるルータ機能について説明します。

# ルータ機能のおもな内容

本製品のルータ機能のおもな内容を説明します。

**ユ**····設定ユーティリティでの設定方法の説明ページ

#### ■基本設定

ルータ機能を利用するのに必要な基本事項を設定するのが[基本設定]です。基本設定は、設定ユーティリティを 起動すると、最初に入力しなければならない設定事項です。ウィザード形式になっており、初心者の方でも簡 単にセットアップできるようになっています。基本設定の内容については、スタートガイドで説明しています ので、そちらをお読みください。

# ■拡張設定

拡張機能は、ルータ機能をより有効に使うために必要な設定です。高度な設定も含まれます。拡張機能は〈拡 張設定メニュー〉と呼ばれる別メニューで表示される設定です。次のような項目があります。

#### ●バルク転送の設定 ユ●P83

バルク転送とは回線使用率が設定値を超えた場合に、ISDN回線を2チャンネル(2B)使用して帯域を確保する 転送方法です。なお、バルク転送をおこなった場合、2Bの帯域を使用しますので、回線の通話料金も2倍かか ります。

# ●ISDN関連の設定 ユーP84

ISDNの接続相手に関する設定や、ISDN接続相手へのリダイヤル機能、認証方法の設定、自動接続の設定、連続接続時間のリミッタ設定、無通信による自動切断などが設定できます。

#### ●IPアドレスの設定 ユ ●P88 IPアドレス変換 ユ ●P91

IPアドレスの設定では、各種IPアドレスおよびネットマスクを設定します。IPアドレス変換では、アドレス変換スタティックやNAT+スタティックの設定などができます。例えば、NAT+スタティックを使うと、ダイヤル アップ契約のようにWAN側にIPアドレスがひとつしかない場合でも、WAN側からLAN側に接続したサーバ等 へのアクセスが可能になります。また、通常のIPアドレス変換の場合でもポート変換を使ってセキュリティを 向上させることができます。

#### ●ルート情報設定 ユー●P94

ルート情報で中継先アドレス、宛先アドレス、アドレスマスクを設定すると確実にデータを送信することがで きます。

#### ●フィルタリング設定 ユー P95

フィルタリングとは、送信されてくるデータを、中継したり遮断したりする機能のことです。本製品では、中 継用と遮断用のフィルタリングデータを設定できます。また、「発呼契機フィルタリング」の設定もできます。 これは、自動発呼(自動接続)の元となるパケットを指定することで発呼(接続)をコントロールする機能です。発 呼契機フィルタリングを設定すると、このフィルタエントリと合致したパケットを受信したときのみ発呼をお こないます。フィルタリングエントリに合致しないパケットはすべて破棄されます。

#### ●DHCPの設定 ユーP101

DHCPサーバの機能をどのように利用するかを設定します。

# ルータ機能の設定方法について

ルータ機能の設定には、2種類の方法があります。このマニュアルでは、このうち「設定ユーティリティを使った設定方法」を説明しています。

# 設定ユーティリティを使って設定する

設定ユーティリティには、アナログ通信機能を設 定する画面があります。この画面で設定した内容 は、ファイルとして保存し、本製品の本体にデー タとして転送します。機能全体の設定や複雑な機 能のときに便利です。また、設定内容がファイル として保存できるので、画面上で確認したり、い くつもの設定パターンを保存できます。



# ターミナルソフトを使って設定する

OSに標準であるターミナルソフトなどを使って、コマンドで設定することができます(●P108)。コマンドを 利用すればOSに依存することなくいろいろな機能を設定できます。また、一部の特殊な機能はコマンドでのみ 提供されています。コマンドでの設定の説明はhtmlファイルでリファレンスマニュアルとして提供され、イン ターネットブラウザを利用することで簡単にコマンド機能の詳しい内容を知ることができます。内容について は、製品に添付されたCD-ROMの"command"フォルダにある「Readme.txt」をお読みください。

# Chapter 2 設定ユーティリティを 使って設定する

VIA LOOPの設定ユーティリティを使ってアナログ通信機能を設定します。設定ユー ティリティのインストール方法は、「スタートガイド」で説明しています。すでに本製品を 使ってインターネットへ接続している場合は、設定ユーティリティはインストール済み です。

1.	設定ユーティリティから設定する
2.	アナログ通信の基本機能を設定する
З.	アナログ通信の応用機能を設定する
4.	着信転送機能を設定する
5.	コールバック・中継機能を設定する
6.	短縮ダイヤルを登録する40
7.	設定ファイルを転送する42

設定ユーティリティから設定する

本製品の設定ユーティリティを使うとアナログ通信機能やルータ機能の設定をコンピュータ上からGUIを使って 設定できます。設定内容はファイルに保存され、10BASE-TまたはRS-232C経由で本製品に転送されます。

# 設定ユーティリティの役割

スタートガイドでインストールした設定ユーティリティでは、ルータ機能の設定だけでなくアナログ通信機能の設定がおこなえるようになっています。

# 設定した内容はファイルで保存します

設定ユーティリティを使って設定した内容は、拡張子が"nvr"の設定ファイルとして保存されます。設定を変更 した場合は設定ファイルとして保存し、さらにその内容を有効にするには、本製品の本体内に設定ファイルを 転送する必要があります。また、本製品の本体内から設定ファイルを呼び出すこともできます。これは、設定 ユーティリティを使わずに電話機から設定した内容を、設定ユーティリティで読み込むときに使用します。設 定ファイルを複数作成することで設定内容をバックアップしたり、環境を使い分けたりすることも簡単です。

# ♥ Tips 電話機で設定した内容について

電話機から設定した内容は、本製品の本体内にその設定内容が保存されていますが、設定ファイルとしてコン ピュータ上には保存されていません。電話機から設定したあとで、設定ユーティリティを使用する場合は、ま ず設定ユーティリティを使って、本製品の本体内から設定ファイルを呼び出し、その設定ファイルを変更して ください。

# 設定したファイルは最後に必ず転送します

変更した設定内容を有効にするには設定ファイルを必ず最後に本製品内に転送します。転送方法には、コンソール ポートを使ってRS-232Cで転送する方法と、10BASE-Tを使ってネットワーク経由で転送する方法があります。

# ●10BASE-Tを使ってネットワーク経由で転送する



※コンピュータが1台の場合はViA LOOPと直接接続できます。

# ●コンソールポートを使ってRS-232Cで転送する



※本製品にはRS-232Cケーブルは付属しておりません。 本製品でRC-232Cケーブルを使用する場合は、エレコム製C232R-S1.5(1.5m)、C232R-S3.0(3.0m) をご使用ください。

# 設定のための画面構成と流れ



# アナログ通信機能設定 画面を表示する

設定ユーティリティの〈アナログ通信機能設定〉画面を表示します。

# 設定ユーティリティを起動します。

· [スタート]→[プログラム]→[ViALOOP6010設定ユーティリティ]→[ViALOOP6010設定ユーティリティ]を選択します。

2 [アナログ通信機能の設定]を選択します。

このユーティリティで	○ルー知識能の設定(E)
ViA LOOPの	設定ファイル名: 時日 1757/Linux
基本設定ができます。	*10/07 11/21/11
	● 新規作成
	・ 明にある設定ファイルの再設定(1)
6752 M	「「「丁口グ通信機能の設定(工)
	設定ファイル名:
	新しいファイルnvt
作成済みの	●照◎
することも可能です。	<ul> <li>第1%1+0x</li> <li>Flipe 1+0x</li> <li>Flipe 1+0x</li></ul>
	<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>
r)	

3 新規作成するか既にあるファイルの再設定なのかを選択します。



# ➡ 新規作成のとき

「新規作成」を選択し、[設定ファイル名]にファイル名を入力します。

# ➡ 既存の設定ファイルを呼び出すとき

「既にある設定ファイルの再設定」を選択し、呼び出すファイル名を入力します。 ● ● ダ☆ ● をクリックするとツリー上から選択できます。



電話機から設定を変更した場合は、ハードディスクなどに保存されている設定ファイルの内容と、本製品の本体内にある設定内容が異なる状態になっています。本製品の本体内にある設定内容を元に設定を変更したい場合は、本製品の本体内から設定内容を転送してファイルとして保存してから、その設定内容を変更してください。

 

 4
 ファイルを指定したら、次へゆうをクリックします。

 (アワン)
 たクリックします。

 (市成済みの 設定ファイルを転送 することも可能です。)
 (アワン)

 (市成済みの 設定ファイルを転送 することも可能です。)
 (市規作成 ・新規作成 ・)

 (市成市政)
 参照図。

 (市成市政)
 (市成市政)

 (市成市政)
 (市成市政)

 (市成市政)
 (市成市政)

 (市成市政)
 (市成市政)

 (市成市政)
 (市成市政)

 (市成市政)
 (市政)

 (市政市政)
 (市政)

 (市政市政)
 (市政)

 (市政市政)
 (市政)

 (市政市政)
 (市政)

 (市政市政)
 (市政)

・アナログポート設定ユーティリティの〈メインメニュー〉画面が表示されます。



〈TEL1ポートの設定〉画面または〈TEL2ポートの設定〉画面が表示されます。

このあとは、次の一覧を参考に設定したい項目のあるページをお読みください。

- ・基本機能を設定する●P22ページ
   ・着信転送を設定する●P33ページ
- ・応用機能を設定する☞P28ページ
  - ・コールバックを設定する**~**P37ページ
- ・短縮ダイヤルを登録する●P40ページ
- ・設定一覧を見る。P22ページ

### ■終了するには

- ①〈メインメニュー〉画面で、 😚 🛛 戻 る 🔹 をクリックすると、〈設定ユーティリティ〉画面に戻り ます。
- ② 開ごる をクリックすると、終了することを確認するメッセージが表示されます。よろしければ、
   ③ 使すと終了します。



TELポートごとにアナログ通信機能の基本機能を設定します。

# 基本設定の画面について

設定画面を表示する



アナログポート設定ユーティリティの〈メインメニュー〉画面で[TEL1ポートの設定]または[TEL2ポートの設 定]をクリックします。 ◆P20

· 〈TEL1(2)ポートの設定〉画面が表示されます。

◆ 〈TEL1(2)ポートの設定〉 画面

🌆 Laneed ViA LOOP アナロクポート設定 [C¥LOOP6010¥basic01.nvt] 🛛 🗙					
ヘルプ(円)					
TEL1ボートの設定					
「着信種別	□ 「内線呼出ペル		<sub>「</sub> 発信者番号優先着信—	٦	
○ 着信禁止	<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>	:同じ	⊙しない		
<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>	○ 短いサイクル		O する		
🗌 通信中著信許可	att cut bé (=				
				٦	
🗌 通話中追加呼出許可	しない		•		
○ ダイヤルイン番号のみ着信す	ె	⊙ ≠3	ハバーディスプレイ非対応電話機		
○ ダイヤルイン番号、契約者回	0 73	ハバーディスプレイ対応電話機1			
○ 契約者回線番号のみ着信する		073	ハバーディスプレイ対応電話機2		
④ ダイヤルイン番号のチェックをしない		追加	呼出遅延(ベル回数) なし		
ダイヤルイン番号			ダイヤル完了タイマ 4秒	-	
			ボリューム調整 1:大	7	
応用設定 着(	言転送設定 コー	-ルバッ	ク設定 短縮ダイヤル登録	č.	
工場出荷値へ戻す 設計	定一覧表示	反	定 キャンセル	]	

# ボタンメニューの内容

〈TEL1(2)ポートの設定〉画面の下部に表示される各選択ボタンの機能について説明します。

応用設定	〈TEL1(2)ポートの応用設定〉画面が表示されます。
着信転送設定	〈着信転送設定〉画面が表示されます。
コールバック設定	〈コールバック設定〉画面が表示されます。
短縮ダイヤル登録	〈短縮ダイヤル登録〉画面が表示されます。
工場出荷値へ戻す	設定値を工場出荷時の初期値に戻すことができます。
設定一覧表示	設定した内容が一覧で表示されます。
設定	設定した内容を保存し、〈メインメニュー〉画面に戻ります。
(キャンセル)	設定した内容を無効にして、〈メインメニュー〉画面に戻ります。

# 基本設定の項目の内容

● は有料サービスの契約が必要

# 着信種別 初期値 TEL1:着信許可(条件なし) TEL2:追加呼出許可

電話の着信状態を設定します。なお、通話中着信許可または通話中追加呼出許可に設定した場合、FAXやモデムが通信中に割込音のために障害を起こすことがあります。このような場合は、設定を変更してください。



◆着信禁止

電話の着信を禁止し、発信専用にします。

#### ◆着信許可

電話の着信を許可します。許可する条件を選択できます。チェックボックスをすべてオフにすると「条件なし」 になります。

(条件なし)	かかってきた電話をすべて着信します。TEL1とTEL2が同じ電話番号で、どちらの回線も空いてい る場合は、TEL1の着信音が優先的に鳴ります。
通信中着信許可	通話中に別の電話がかかってきたときに、割込音を鳴らします。TEL1とTEL2が同じ電話番号で、 どちらの回線も通話中の場合は、TEL1に対して優先的に割込音を鳴らします。
追加呼出許可 (TEL2ポートのみ)	TEL2ポートの設定画面だけに表示される項目です。TEL1とTEL2が同じ電話番号の場合は、両方の着信音を同時に鳴らします。
通話中追加呼出許可	TEL1とTEL2が同じ電話番号の場合は、空いているTELポートに対して着信音を鳴らし、同時に通話中のTELポートに対して割込音を鳴らします。



・通話中着信許可または通話中追加呼出許可の設定を有効にしたい場合は、通話中着信通知サービスをNTTと 契約(無料)する必要があります。

・追加呼出と通話中追加呼出では、着信音と割込音を遅らせて鳴らすことができます。(~P26)

# 内線呼出ベル 初期値 外線呼出ベルと同じ

内線からの電話と外線からの電話を区別できるように、内線の電話機からの着信音を短いサイクルで鳴らすこ とができます。「外線呼出ベルと同じ」を選択すると、外線と内線の呼出ベルは同じ音になります。「短いサイ クル」を選択すると、内線の呼出ベルは外線の呼出ベルより短いサイクルで鳴ります。

内線呼出ヘルー

● 外線呼出ベルと同じ
 ○ 短いサイクル

# 発信者番号優先着信 初期値 しない

特定の相手からの電話をTEL1ポートまたはTEL2ポートに強制的に着信させることができます。この設定をおこなうと、相手がかけた電話番号とTELポートに登録したダイヤルイン番号、サブアドレス、機器種別が異なっていても、この設定で指定したTELポートに着信します。

「しない」を選択すると、この機能を利用しません。「する」を選択すると、この機能を利用します。「する」を選択した場合は、短縮ダイヤルの00~09のいずれかに相手の電話番号を登録する必要があります(◆P40)。 TEL1ポートとTEL2ポートで同じ番号を登録した場合は、TEL1ポートの設定が優先されます。また、次のことに注意してください。

- ・中継機能、コールバック機能を設定している場合は、必ず〈応用設定〉で[発信者番号通知]を「する」に設定 してください。
- ・INSネット64を契約するときは、発信者番号通知サービスを「呼毎通知許可」で契約してください。
- ・指定されたTELポートが通話中の場合、別ポートの呼出ベルは鳴りません。
- ・グローバルセレクト、ダイヤルイン、サブアドレスおよび機器種別が設定値と異なっていても、指定された TELポートの呼出ベルが鳴ります。

┌発信者番号優先着信-

⊙しない ○する

# \* 🟵 識別着信 初期値 しない

※一部有料

この項目を設定すると、設定した条件で電話を着信します。TELポート毎に特定の相手からの電話だけ着信させたり、発信者番号を通知してこない相手からの着信を拒否することができます。迷惑電話などの防止策などにも利用できます。一般回線からの発信者番号通知や公衆電話からの通知を受けるにはINSナンバーディスプレイサービスの契約が必要です。また、INSなりわけの着信通知を受けるにはINSなりわけの契約が必要です。

Г	識別着信	
	しない 💌	
L	しない 	_
	短調算録 ・ INSなりわけ	
	発信者番号通知・INSなりわけ	
:	短縮宜球 ・INSなりわけ・公衆電話    発信者番号通知・INSなりわけ・公衆電話	
	[INSなりわけ以外の発信者番号通知指否以外	

しない	識別着信をおこないません。
短縮登録	短縮ダイヤルに登録されている電話番号と同じ発信者番号であれば着信を許可します。
短縮登録・INSなりわけ	短縮ダイヤルに登録されている電話番号またはINSなりわけ(NTT有料契約)で登録している電 話番号であれば着信を許可します。
発信者番号通知・ INSなりわけ	発信者番号が通知されているか、INSなりわけ(NTT有料契約)で登録している電話番号であれ ば着信を許可します。
短縮登録・INSなりわけ・ 公衆電話	短縮ダイヤルに登録されている電話番号、INSなりわけ(NTT有料契約)で登録している電話番号、または公衆電話からであれば着信を許可します。
発信者番号通知・ INSなりわけ・公衆電話	発信者番号が通知されているか、INSなりわけ(NTT有料契約)で登録している電話番号、また は公衆電話からであれば着信を許可します。
INSなりわけ以外の 発信者番号通知拒否以外	INSなりわけ(NTT有料契約)で登録している電話番号を除く匿名の電話は着信しません。

# グローバルセレクト/ ③ ダイヤルイン 初期値 ダイヤルイン番号のチェックをしない

NTTのダイヤルインサービス(有料)をご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号(ダイヤルイン 番号)を持つことができます。TELポートごとにダイヤルイン番号を設定しておくと、特定のポートに着信させ ることができます。ダイヤルイン番号は自己アドレスとして設定できます。本製品には契約者番号(グローバル 着信番号)をダイヤルイン番号のように扱い、特定の通信機器に直接着信させるグローバルセレクト機能もあり ます。これらの機能は、TELポートごとに設定します。

※ダイヤルイン番号は、市外局番を付けずに登録してください。また、"()"や"-"は入力しないでください。

# 「クローバルセレクト/ダイヤルイン―

○ ダイヤルイン番号のみ着信する
○ ダイヤルイン番号、契約者回線番号で着信する
○ 契約者回線番号のみ着信する
⊙ ダイヤルイン番号のチェックをしない
ダイヤルイン番号

ダイヤルイン番号のみ着	ダイヤルイン番号のみ着信を許可します。 ダイヤルイン番号を入力します。 (3〜20桁、市外局番
信する	は不要)
ダイヤルイン番号、	ダイヤルイン番号と契約回線番号のいずれの番号も着信を許可します。 ダイヤルイン番号を入力
契約回線番号で着信する	します。 (3~20桁、市外局番は不要)
契約者回線番号のみ着信	契約者回線番号のみ着信を許可します。この設定を選択するとダイヤルイン番号は削除されま
する	す。
ダイヤルイン番号のチェッ	ダイヤルイン番号の契約をしていない場合は、この項目を選択します。この設定を選択するとダ
クをしない	イヤルイン番号は削除されます。

#### ダイヤルイン番号をひとつ契約するだけで各ポートへ着信できます。

グローバルセレクト機能とダイヤルイン番号をうまく使うことで、ダイヤルイン番号をひとつ契約するだけで、 TEL1ポートとTEL2ポートに独立した電話番号を割り当てることができます。

#### (例)電話機とFAXの番号を分けたい

Tips

契約回線番号 XX-XXXX-0030、ダイヤルイン番号 XX-XXX-0035の場合 ・契約回線番号を電話機に割り振り、TEL1ポートに接続

・ダイヤルイン番号をFAXに割り振り、TEL2ポートに接続

グローバルセレクト/ダイヤルイン設定で、TEL1ポートは「契約者回線番号のみ着信する」を選択し、TEL2 ポートは「ダイヤルイン番号のみ着信する」を選択します。これで、それぞれの電話番号につながる機器が固 定されます。

# ★ ナンバーディスプレイ 初期値 ナンバーディスプレイ装置を使用しない

ナンバーディスプレイ装置の機能を利用するには、対応電話機が接続されているTELポートにナンバーディスプレイの使用方法を設定をする必要があります。ナンバーディスプレイ装置を呼び出す呼出音(起動信号)のON/OFF の時間は0.5秒が規定値ですが、本製品では、この時間をTELポートごとに変更することができます。また、次の点に注意してください。

- ・この項目の設定は、実際にナンバーディスプレイ装置を使用するのかしないのかを、正しく設定してください。使用状態と設定値が異なると電話機またはナンバーディスプレイ装置が誤動作を起こすことがあります。
- ・1300Hz無鳴動着信を利用する場合でも、この設定は有効になります。1300Hz無鳴動着信を利用する場合 はご注意ください。
- ・割り込み着信をナンバーディスプレイすることはできません。
- ・両方のTELポートにナンバーディスプレイを設定して同時に呼び出すとTEL2ポートの電話機の番号表示が若 干遅れます。

ナンバーディスプレイ非対応電話機	電話機に発信者番号を通知しません。
ナンバーディスプレイ対応電話機1	電話機に発信者番号を通知します。起動信号は0.5秒(規定値)です。
ナンバーディスプレイ対応電話機2	電話機に発信者番号のタイミングを変えて通知します。起動信号は0.65秒/0.35秒です。

- ●ナンバーディスプレイ対応電話機を使用する場合、停電等によりナンバーディスプレイ機能が利用できない ときは、呼出音が鳴ってから6秒経過後に受話器を取るようにしてください。長時間このような状態が続く場 合は、一時的に「ナンバーディスプレイ非対応電話機」に設定を変更してください。
  - ●ナンバーディスプレイ対応電話機を使用している状態で着信転送時の呼出ベルや追加呼出遅延を利用すると、 電話機によっては着信転送時や追加呼出の遅延呼出回数が設定値より1~2回少ないことがあります。このような場合は、呼出回数を多めに設定してください。
  - ●ナンバーディスプレイが電話のかかってくるタイミングによって正常に動作しない場合は、状況に合わせて 次のような設定をおこなってみてください。
  - ・通常の呼出音より短い間隔でベルがなり、ナンバーディスプレイができない。
  - → 〈応用設定〉画面で[ベル周波数]を変更してみてください。また、「ナンバーディスプレイ対応電話機2」 に設定してみてください。
  - ・短い呼出音は鳴らないが、ナンバーディスプレイが表示されない。
  - →〈基本設定〉画面で[ボリューム調整]を変更してみてください。

電話をかけてくる所	発信時の条件	INSナンバーディスプレイ 契約時の表示内容	INSナンバーディスプレイ 非契約時の表示内容
一般委託わら	番号通知で発信	発信者番号	表示圈外
	番号非通知で発信	匿名	表示圈外
	番号通知で発信	発信者番号	発信者番号
	番号非通知で発信	匿名	表示圈外
その地 発信来早の通知ができる電話から	番号通知で発信	発信者番号	発信者番号
ての他、先信曲ちの通知がてきる電話がら	番号非通知で発信	匿名	表示圈外
公衆電話から	-	公衆電話	表示圈外
その他、発信番号の通知ができない電話から	_	表示圈外	表示圈外
内線	_	なし	なし
内線転送	_	なし	なし

#### ◆参考:INSナンバーディスプレイ契約状態とディスプレイへの表示内容

# 追加呼出遅延(ベル回数) [初期値] なし(0回)

追加呼出許可または通話中追加呼出許可の設定を有効にしているとき、TEL2ポートの電話機の着信音や割込音 を、TEL1ポートの電話機よりも遅らせて鳴らすことができます。遅らせる時間は、ベルの回数で設定します。 なお、追加呼出遅延によって、着信音が鳴っていなくても電話に出ることはできます。 設定方法は、追加呼出許可または通話中追加呼出許可の設定を有効にしたあとで、プルダウンメニューから回

設定方法は、追加呼出計可または通話中追加呼出計可の設定を有効にしためとど、フルタワンメニューから回 数を選択します。1~9回まで設定できます。また、次の点に注意してください。

・着信種別で追加呼出または通信中追加呼出を選択していないときは無効です。

・TEL1では追加呼出を遅らせることはできません。 TEL1での設定は、通信中追加呼出のみ有効です。

追加呼出遅延(ベル回数) なし 🗾

# ダイヤル完了タイマ 初期値 4秒

ダイヤルを完了したあとに電話機の ④を押すとすぐに発信されますが、 ④を押さなかったときに、何秒待っ て発信するかを設定します。プルダウンメニューから秒数を選択します。無効を選択すると ④を押さないと発 信しません。有効にする場合は1~9秒まで設定できます。ダイヤル完了タイマは、ダイヤル中にも働いていま す。タイマ値を短くすると、ダイヤル中に発信してしまうおそれがありますので、ご注意ください。また、「O 秒」に設定した場合は、 ④を押さないと発信しません。

ダイヤル完了タイマ 4秒 💌



α-LCR機能を持つ電話機をご利用の場合 ダイヤル完了タイマを「9秒」に設定してください。

# ボリューム調整 初期値 大

通話時の受話音量(ボリューム)を調整します。「大」または「小」を選択できます。

ボリューム調整 1:大 💌



TELポートごとにアナログ通信機能の応用機能を設定します。

# 応用機能の設定画面について

応用機能の設定画面の表示方法とボタンメニューの説明をしています。

# 設定画面を表示する



〈TEL1(2)ポートの設定〉 画面で

応用設定 〈TEL1(2)ポートの応用設定〉画面が表示されます。

◆ 〈TEL1ポートの応用設定〉 画面の場合



# ボタンメニューの内容

〈TEL1(2)ポートの応用設定〉画面の下部に表示される各選択ボタンの機能について説明します。

### ◆選択ボタンの機能

0 K	設定値した内容を有効にしたまま、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。
<b>キャンセル</b>	設定値した内容を無効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。

# 応用機能の項目の内容

# 発信者番号通知 初期値 契約による

ナンバーディスプレイサービスに関連して、184または186をダイヤルしないで、電話をかけたときに、発信者番号を相手に対して通知するのか、しないのかをTELポートごとに設定できます。この項目の設定は、INSネット発信者番号通知サービスの契約内容に影響されますので、お客様の契約内容をご確認ください。

#### -発信者番号通知—

○しない ○する

$\odot$	契約による	
$\odot$	契約による	

項目	NTTとの契約	通常の発信時	184を付けて発信	186を付けて発信
	呼毎通知許可	通知しない	通知しない	通知する
(発信者番号を通知) しない)	呼毎通知拒否	通知しない	通知しない	通知する
	常時拒否	通知しない	※通知しない	※通知しない
	呼毎通知許可	通知する	通知しない	通知する
(発信者番号を通知) する	呼毎通知拒否	通知する	通知しない	通知する
	常時拒否	通知しない	※通知しない	※通知しない
	呼毎通知許可	通知する	通知しない	通知する
(発信者番号の通知は) 契約による	呼毎通知拒否	通知しない	通知しない	通知する
	常時拒否	通知しない	※通知しない	※通知しない

※INSネット発信者番号通知サービスの契約内容が「常時拒否」の場合、「ナンバーリクエスト」「INSナンバー リクエスト」を契約されている相手には電話がかかりません。

# 機器種別 初期值 任意

機器種別として、HLC(高位レイヤ整合性)を設定できます。TELポートには、任意、電話、FAXの3種類を設定 できます。「任意」に設定すると電話、FAX、モデムのいずれの着信も許可します。機器種別を電話に設定した 場合は、FAXに設定された相手からの着信は受けられません。また、FAXに設定した場合は、電話に設定され た相手からの着信は受けられません。

# - 機器種別 —

C III A
○ 電話
OFAX

受信した通信クラス 設定した通信クラス	指定なし	電話	FAX
任意	0	0	0
電話	0	0	×
FAX	0	×	0

# フッキング 初期値 有効

フッキングを有効にするかどうかを設定します。フッキングとは、電話機のフックスイッチを押すことです。 コードレスホンや多機能電話機では、キャッチボタン(フックボタン、フラッシュボタン)を押します。1秒以上 押し続けると電話が切れることがあります。「無効」を選択するとフッキングを使った機能は利用できなくなり ます。「通信中発信のみ無効」を選択すると通話中のみフッキングを無効にします。



有効にするとフッキングが使える機能(INSネット64の契約が必要な機能もあります)
 コールウェイティングをするとき / 通話中に発信するとき / 通話・保留の切替 / 外線通話を転送するとき / 外線
 通話を内線転送するとき、および内線転送を中止するとき / 三者通話(ミキシング)を開始・解除するとき / 通信
 中機器移動を保留するとき / 特殊な番号にダイヤルするとき / ダイヤルの途中で、ダイヤルをやり直すとき

# フッキング代用 初期値 しない

フッキングできない電話機(親子電話の子機など)で、キャッチホンのような通話中の応答や、外線を内線に転送 するためにフッキングを使った操作ができるようになります。ただし、電話機に ④ ボタンが必要です。「する」 を選択するとフッキング代用が可能になります。「しない」を選択するとフッキング代用はおこないません。

-**フッキング代用** -⊙しない ○する

# **Tips**

**Tips** 

#### 操作方法は?

④ボタンをフッキング(キャッチ)の代わりに押します。電話機能でフッキングの操作をするときは ④ボタンを押してください。通常ダイヤルの発信時、ボイスワープ登録中(ステミュラス手順中)などの ④はフッキングにはなりません。
 ④ボタンを押すことでダイヤリングをキャンセルしたり、特殊ダイヤルとして ④を利用することはできません。また、ポケットベルなどへの発信のように通話中に ④を押す通話先へ発信する場合は、フッキングは中の機能を使わたいで発信してください。

キング代用の機能を使わないで発信してください。

# 切断音制御 [初期值] 切断音

INSネット64から送られてくる話中音や切断後のダイヤルトーンは、一定時間を経過すると停止します。停止後も、本製品から切断音を流すか、無音にするかを設定します。「切断音」を選択すると本製品から切断音を流します。

「切断音制御	_
--------	---

○ 無音⊙ 切断音

# 疑似なりわけ 初期値 しない

NTTのなりわけサービスをご利用されていないかたでも、短縮登録されている相手から着信があった場合、着 信音をなりわけ呼出ベルと同じように鳴らすことができます。設定はTELポートごとに可能です。「する」を選 択すると短縮ダイヤル登録されている相手からの着信は、通常のベルより短いサイクルで鳴ります。「しない」 を選択すると疑似なりわけをおこないません。

- **疑似なりわけ** — ⊙ しない

⊙ しない ○ する

**Tips** 

疑似なりわけの呼出ベルは、通常の呼出ベルより短いサイクルで鳴ります。また、通常の着信音は2回ずつ鳴りますが、なりわけ着信時は4回ずつ鳴ります。

# FAX無鳴動着信 初期值 禁止

HLCの通知ができない一般電話からFAXの着信を無鳴動(1300Hz)着信することができます。設定はTELポートごとにいろいろなパターンを選択できます。

**┌FAX無鳴動着信**-

⊙ 禁止

○ 着信時のH L CがF A Xのときのみ許可

○ 許可

○ 契約者回線番号著信のみ許可

○ ダイヤルイン著信のみ許可

禁止	FAX無鳴動着信をしません。
着信時のHLCがFAXのときのみ許可	着信時のHLC(機器種別)がFAXの場合のみ無鳴動着信をおこないます。
許可	着信した電話をすべて無鳴動着信にします。
契約者回線番号着信のみ許可	契約者回線番号で着信した電話のみ無鳴動着信にします。
ダイヤルイン着信のみ許可	ダイヤルイン番号で着信した電話のみ無鳴動着信にします。

`**`<b>∏**Tips

本製品では、通常の電話番号の前に特定の番号を付けてダイヤルするだけで、その通話に限ってHLC(機器種別) を特定することができます。また、通話中の着信(コールウエイティング)を無視できます。

ダイヤル	内容
130	通話・通信中の着信をこの通話だけ禁止します。ただし、保留後や内線転送後は無効になります。
$\boxed{1 \ \textbf{8} \ \textbf{1}}$	HLCを「任意(HLCをおこなわない)」として発信します。
1 3 2	HLCを「電話」として発信します。
133	HLCを「FAX」として発信します。また、通信中の着信をこの通話だけ禁止します。
1 8 5	フッキング代用特番をこの通話だけ中止します。

# サブアドレス 初期値 サブアドレスのチェックをしない

サブアドレスを使うとダイヤルインサービスを利用しなくても、電話番号に続いてサブアドレスをダイヤルす ることで、TEL1またはTEL2ポートを区別して着信させることができます。ただし、サブアドレスが利用でき るのは、発信側もINSネット64に加入している必要があります。一般回線から電話やFAXを受ける場合は、ダ イヤルインサービスを利用するほうが便利です。サブアドレスはポートごとに、19桁まで登録できます。また、 次の点に注意してください。

・中継機能(●P37)を利用しているときは、サブアドレスは利用できません。

- ・サブアドレスを利用するときは、[着信種別]を「着信禁止」に設定してください。(●P23)
- ・ISDN網から着サブアドレスが送られてくると、自己サブアドレスとのチェックをおこないます。双方のサブ アドレスが完全に一致しないと着信されません。

「サブアドレス―――
○ サブアドレスのみ著信する
○ サブアドレスありとサブアドレスなしを着信する
○ サブアドレスなしのみ着信する
⊙ サブアドレスのチェックをしない
サブアドレス

# ベル**周波数** 初期値 0:16.7Hz

電話機のベルの周波数を設定できます。着信音の鳴りかたがおかしいときやナンバーディスプレイの動作がお かしいとき以外は、設定を変更する必要はありません。周波数の数値が大きいほど高い音になります。

ベル周波数 O:16.7Hz 💌



# 着信転送機能を設定する

NTTのフレックスホンサービス(有料)の「着信転送機能」を利用すると、外部からの電話を指定した相手先にダイレクトで転送することができます。さらに、「追っかけ転送機能(**~**P34)」を利用すると、指定した相手先の電話が通話中の場合に、さらに別に指定した相手先に転送することができます。

また、NTTのフレックスホンサービスを契約していないくても、本製品の「フリー転送機能(←P35)」を利用 することで、外部からの電話を指定した相手先にダイレクトで転送することができます。

# 着信転送の設定画面について

# 設定画面を表示する

〈TEL1(2)ポートの設定〉 画面で	着信転送設定	をクリックします。	( <b>•</b> P20)
・ 〈TEL1(2)ポートの着信転送設定	主> 画面が表示され	lます。	
◆〈TEL1ポートの着信転送設定〉	画面の場合		

MailLaneed VIA LOOP アナロクホート設定 [C:¥_LOOP6010#basic01.nvt] X へルプ(出)		
TEL1ポートの着信転送設定		
「着信転送	「転送トーキー	
☑ 着信転送しない	④ 転送トーキなし・転送元トーキなし	
□ 若信転送する	○ 転送トーキあり・転送元トーキなし	
着信転送先番号	○ 転送トーキなし・転送元トーキあり	
追っかけ転送先	○ 転送トーキあり・転送元トーキあり	
「フリー転送――――		
○ フリー転送禁止		
④ フリー転送許可Ⅰ【転送失敗時、発信者に切断音を通知する】		
○ フリー転送許可2【転送失敗時、発信者にアナウンスを通知する(通話料がかかります)】		
○ フリー転送許可3【転送失敗時、又は転送相手が80秒以内に応答しない時このポートを呼び出す】		
_ 暗証番号		
□ 着信転送設定用暗証番号	呼出ベル回数	
□ 著信転送解除用暗証番号	設定 1477년	

# 各選択ボタンの内容

〈TEL1(2)ポートの着信転送設定〉画面の下部に表示される各選択ボタンの機能について説明します。

### ◆選択ボタンの機能

設定	設定した内容を有効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。
キャンセル	設定を無効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。

# 着信転送機能の項目の内容

● は有料サービスの契約が必要

# ● 着信転送 [初期値] 着信転送しない

NTTのフレックスホンサービスにおける着信転送をする、しないの設定をします。着信転送またはフリー転送 (◆P35)を利用するときは、転送先の電話番号および追っかけ転送先の電話番号を指定します。電話番号は TELポートごとに設定できます。着信転送が設定されているとTELポートのランプが点滅します。また、次の 点に注意してください。

- ・本製品までの通話料金は電話をかけてきた相手側の負担になります。本製品から転送先への通話料金は、本 製品側の負担になります。
- ・着信転送中は、コールバック、中継機能は使用できません。
- ・フレックスホンサービスを利用している場合は、転送先に通知される発信者番号通知の内容は、発信元の電 話番号になります。疑似フレックスホンの場合は、本製品の使用している電話番号が通知されます。
- ・フレックスホンサービスを契約している場合でも、着信転送機能を使えないときは、「フリー転送許可」になっていれば、フリー転送機能を使うことができます。
- ・着信転送中は、同じINSネット64上に接続されている電話機では着信転送できません。
- ・遅延着信転送を設定している場合で、転送トーキ、転送元トーキのどちらをも「なし」に設定している場合 は、転送先が話中のときでも、話中音は鳴らずに呼出音が3分以上鳴ります。

-着信転送	
☑ 着信転送しない	
□ 着信転送する	
<b>若信転送先番号</b>	
追っかけ転送先 番号	

着信転送しない	着信転送機能を利用しません。着信転送および追っかけ転送に電話番号を入力している場合、この 項目をオンにしても着信転送機能が利用できないだけで、入力した電話番号は削除されることなく、 そのまま残ります。
着信転送する	着信転送機能を利用します。必ず「着信転送先番号」を入力してください。追っかけ転送する場合 は、「追っかけ転送先番号」も入力してください。
着信転送先番号 追っかけ転送先番号	転送先の番号を市外局番から入力します。"()"や"一"は入れないでください。着信転送機能 を利用する場合は、着信転送先番号を必ず入力してください。追っかけ転送機能も利用する場合は、 さらに追っかけ転送先番号も入力してください。

#### 

外出時だけ着信転送を利用したいときなど、電話番号などは設定ユーティリティで登録して、着信転送機能の 有効/無効だけを、出かける前に電話機から設定すると便利です。電話機からの設定←P50
# ● 転送トーキ 初期値 転送トーキなし・転送元トーキなし

NTTのフレックスホンサービスで着信転送機能を利用する場合は、INSネット64から送られる音声によるメッ セージの転送トーキ・転送元トーキのあり/なしを設定できます。転送トーキ・転送元トーキのあり/なしの組 み合わせで4種類の設定から選択できます。転送トーキでは、電話をかけてきた相手に「ただいま電話を転送し ていますので、そのままでお待ちください。」というメッセージが流れます。転送元トーキでは、転送先の相手 に「電話が転送されますので、そのままお待ちください。」というメッセージが流れます。

**「転送トーキ** ● 転送トーキなし・転送元トーキなし

 ○ 転送トーキあり・転送元トーキなし

 ○ 転送トーキなし・転送元トーキあり

 ○ 転送トーキあり・転送元トーキあり

# フリー転送 初期値 フリー転送許可1

NTTのフレックスホンサービスをご利用でない場合でも、本製品の「フリー転送機能」を使うことで、外部からの電話を指定した相手に転送することができます。転送先の電話番号は着信転送(←P34)で指定します。フリー転送を有効にしていても、フレックスホンサービスの契約が有効になっているときは、フレックスホンサービスのほうが優先されます。また、設定では、次の点に注意してください。

- ·「着信種別」が「着信禁止」に設定されていると、フリー転送機能は使えません。
- ·「着信転送機能」が「着信転送しない」に設定されていると、フリー転送機能は使えません。
- ・フリー転送機能および着信転送機能を設定したときは、同時に中継機能、コールバック機能は設定しないでください。
- ・追っかけ転送を利用する場合は、「フリー転送禁止」を選択しないでください。
- ・フレックスホンサービスの着信転送および、通信中転送を契約されていない場合で、着信転送を利用すると
   きは、「フリー転送禁止」を選択しないでください。

┌フリー転送-

○ フリー転送禁止				
⊙ フリー転送許可1	【転送失敗時、	発信者に切断音を通知する】		
○ フリー転送許可2	【転送失敗時、	発信者にアナウンスを通知する	(通話料がかかり:	ます〉】
○ フリー転送許可3	【転送失敗時、	又は転送相手が30秒以内に応答	しない時このボー	トを呼び出す】

フリー転送禁止	フリー転送による着信転送を禁止します。
フリー転送許可1	フリー転送による着信転送をおこないます。フリー転送できなかった場合は、電話をかけてきた相手 に切断音を流します。
フリー転送許可2	フリー転送による着信転送をおこないます。フリー転送できなかった場合は、電話をかけてきた相手 に接続してトーキ(圏外のアナウンスなど)を流します。回線を接続している間、通話料金がかかり ます。
フリー転送許可3	フリー転送による着信転送をおこないます。フリー転送できなかった場合は、接続している電話機を 呼び出して通常の着信と同じにします。留守番電話に接続していると、転送に失敗したときは留守番 電話にメッセージを録音することができます。

# **暗証番号** 初期值 未登録

ISDN公衆電話、サブアドレス機能付きのPHSなど本製品に接続していない電話機から、リモート設定(●P52) により着信転送機能の設定・解除をおこなうことができます。リモート設定をおこなうときは、あらかじめ着信 転送設定用の暗証番号と着信転送解除用の暗証番号を登録している必要があります。暗証番号はTELポートご とに設定できます。暗証番号の登録では次のことに注意してください。

・暗証番号は4桁の数字を使用してください。

・TELポートにサブアドレスを設定している場合は、サブアドレスと暗証番号が同じ値にならないようにして ください。

-暗証番号-

🗌 着信転送設定用暗証番号	
🗌 着信転送解除用暗証番号	

着信転送設定用	外出先から着信転送の設定をおこなう場合は、チェックボックスをオン(有効)にします。オンにした場
暗証番号	合は、必ず数字4桁の暗証番号を入力します。着信転送解除用暗証番号と同じ値にしないでください。
着信転送解除用 暗証番号	外出先から着信転送の解除をおこなう場合は、チェックボックスをオン(有効)にします。オンにした場 合は、必ず数字4桁の暗証番号を入力してください。着信転送設定用暗証番号と同じ値にしないでくだ さい。同じ暗証番号を設定すると、設定用が優先になります。

## 呼出ベル回数 初期値 0回

フレックスホンサービスの着信転送やフリー転送時に設定回数だけ呼出音を鳴らしてから、転送することができます。呼出音が鳴っている間に受話器を取ると転送はキャンセルされ相手と話すことができます。 をクリックするとプルダウンメニューが開きます。0~9回の間で設定したい回数を選択してください。

#### ◆参考:着信転送時の転送先での表示内容

	本製品での				
発信者の状況	着信転送方法	発信者番号通知 の設定	契約状況(常時拒 否は除く)	転送先でナンバーディスプレイされる内容	
	フレックスホン	_	_	発信者の電話番号※	
	フリー転送	④, ◈, ወ	_	本製品からの表示拒否理由	
発信者番号を通知する		④, ⋧, ①	—	本製品の電話番号	
		④, ◈, ②	呼毎通知許可	本製品の電話番号	
			呼毎通知拒否	本製品からの表示拒否理由	
発信者番号を通知しない	フレックスホン	_	—	発信者からの表示拒否理由※	
	フリー転送	④, ⋧, ወ	—	本製品からの表示拒否理由	
		④, ⋧, ①	_	本製品の電話番号	
		④, ℱ, ②	呼毎通知許可	本製品の電話番号	
			呼毎通知拒否	本製品からの表示拒否理由	
※転送先が携帯電話やPHSなどの移動体電話では通知されません。(1998.5現在)					

●表示拒否理由には、匿名、表示圏外などがあります。

コールバック機能と中継機能の設定および各機能のために必要な短縮ダイヤル番号を登録します。

#### ●コールバック機能とは

コールバック機能は、電話をかけてきた相手に自動的に電話をかけ直す機能です。例えば、携帯電話やPHSから会社に電話をかけたとき、コールバック機能を使うと通話料金を会社側に負担してもらうことができます。 コールバック機能はTELポートごとに設定できます。

#### ●中継機能とは

中継機能は、あらかじめ登録されている電話番号から電話がかかってきたとき、あるいは、サブアドレスに中継先電話番号が含まれている場合に、相手先へ電話を転送する機能です。この機能を使うことによって、PHSから携帯電話に電話をかけることもできます。なお、この機能を使うには、発信者側にPHSのような発信者番号通知機能とサブアドレス機能を持つ機器が必要です。

# コールバック・中継設定の画面について

# 設定画面を表示する

〈TEL1(2)ポートの設定〉画面で コールバック設定 をクリックします。 → P20

・〈TEL1(2)ポートのコールバック・中継設定〉画面が表示されます。

◆〈TEL1ポートのコールバック・中継設定〉画面の場合

Ameed ViA LOOP 7力功%~N設定 [C¥LOOP6010¥basic01.nvt]
ヘルプ田
TEL1ボートのコールバック・中継設定
「コールバック――
⊙ コールバックしない
○ 相手番号が登録されている場合のみ、コールバックする
○ 相手番号が登録されているまたは、発信者番号通知のない場合もコールバックする
◎ 中維しない
○ 任意の電話番号を中継する

# 各選択ボタンの内容

〈TEL1(2)ポートの着信転送設定〉画面の下部に表示される各選択ボタンの機能について説明します。

◆選択ボタンの機能

相手番号登録	〈TEL1(2)ポートのコールバック·中継相手番号登録〉画面を表示します。
設定	設定した内容を有効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。
<b>キャンセル</b>	設定を無効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。

# コールバック・中継設定機能の項目の内容

# コールバック 初期値 コールバックしない

コールバック機能は、電話をかけてきた相手に自動的に電話をかけ直す機能です。例えば、携帯電話やPHSから会社に電話をかけたとき、コールバック機能を使うと通話料金を会社側に負担してもらうことができます。 コールバック機能はTELポートごとに設定できます。コールバック機能を利用するには、〈TEL1(2)ポートのコ ールバック・中継設定〉で条件を設定したあと、〈相手番号登録〉画面でコールバックの要求元の電話番号を短 縮ダイヤル番号(20~39)に登録する必要があります(←P40)。

-コールバック —

⊙ コールバックしない

○ 相手番号が登録されている場合のみ、コールバックする

○ 相手番号が登録されているまたは、発信者番号通知のない場合もコールバックする

コールバックしない	コールバック機能を利用しません。
相手番号が登録されている場合のみ、 コールバックする	通知された相手の番号がコールバックの相手番号として登録されている場合はコー ルバックをおこないます。相手側は発信者番号通知機能を持つ機器である必要があ ります。
相手番号が登録されているまたは、 発信者番号の通知のない場合もコー ルバックする	通知された相手側の番号がコールバック相手番号として登録されている場合また は、発信者番号通知のない相手へコールバックをおこないます。発信者番号通知の ないコールバックを行う場合、短縮ダイヤル 20 へ相手番号を登録してください。

# 中総許可指定 [初期値] 中継しない

中継機能は、あらかじめ登録されている電話番号から電話がかかってきたとき、あるいは、サブアドレスに中 継先電話番号が含まれている場合に、相手先へ電話を転送する機能です。この機能を使うことによって、PHS から携帯電話に電話をかけることもできます。なお、この機能を使うには、発信者側にPHS のような発信者番 号通知機能とサブアドレス機能を持つ機器が必要です。着信転送は、転送先が固定されています。転送先を変 更したい場合は、その都度、変更しなければなりません。しかし、この機能は転送先を任意に設定できますの で、相手先が異なる場合でも、設定を変更する必要はありません。

※フレックスホンの着信転送以外の着信転送(フリー転送など)は、携帯電話から PHS への転送を可能とし ますが、中継機能は、サブアドレスを利用しますので、携帯電話から PHS への転送による通話ができません。中継機能の使用方法については、 このマニュアルの69ページ「中継機能を使う」をお読みください。

#### 「中継許可指定」

④ 中継しない
○ 任意の電話番号を中継する

中継しない	中継機能を利用しません。
任意の電話番号を	任意の番号への中継機能を利用します。必ず中継する相手番号を、短縮ダイヤル20~39に登録して
中継する	ください。

# コールバック・中継相手の電話番号を登録する

# 設定画面を表示する

〈コールバック設定〉画面で 相手番号登録 をクリックします。

・設定に関する確認メッセージが表示されます。

・〈TEL1(2)ポートのコールバック・中継相手番号登録〉画面が表示されます。

◆〈TEL1ポートのコールバック・中継相手番号登録〉 画面の場合

🌆 Laneed ViA LOOP アナロクポート設定 [C:¥LOOP6010	)¥basic01.nvt] 🛛 🗶
ヘルプ(日)	
TEL1ボートのコールバ	、ック・中継相手番号登録
	20 30 30
:	21 31
:	22 32
:	23 33
:	24 34
:	25 35
:	26 36
:	27 37
:	28 38
:	29 39
ブリンタ設定	印刷設定 [キャンセル]

TEL1ポート、TEL2ポートでそれぞれ20件の電話番号を登録することができます。電話番号は市外局番から 入力してください。入力するのは数字だけです。"()"や" - "は入力しないでください。

### ◆入力例

035950XXXX ←必ず市外局番から入力し、"( )"や" - "は入力しない。

# 各選択ボタンの内容

〈TEL1(2)ポートのコールバック・中継相手番号登録〉画面の下部に表示される各選択ボタンの機能について説明します。

プリンタ設定	Windowsのシステムにおいて標準で使うように設定されているプリンタの設定画面が表示されます。
ED 周	登録したコールバック·中継相手番号を一覧を印刷します。
設定	設定した内容を有効にして、〈TEL1(2)ポートのコールバック・中継設定〉画面に戻ります。
キャンセル	設定を無効にして、〈TEL1(2)ポートのコールバック・中継設定〉画面に戻ります。

#### ◆選択ボタンの機能

TELポートごとに短縮ダイヤルを最大40か所まで登録できます。短縮番号の00~09は発信者番号優先着信 (●P24)、20~39はコールバックおよび中継機能対象番号と共用になります。

# 短縮ダイヤルの登録画面について

# 短縮ダイヤルの登録方法



▶ アナログポート設定ユーティリティの〈メニュー選択〉画面で[TEL1ポートの設定]または[TEL2ポートの設 定]をクリックします。

· 〈TEL1(2)ポートの設定〉画面が表示されます。

2 メニューボタンの 短縮ダイヤル登録 をクリックします。

🌆 Laneed ViA LOOP アナロクポート設定 [C:¥LOOP6010¥basic01.nvt] 🛛 🔀					
ヘルプ(圧)					
TEL1ボートの設定					
「着信種別	<sub> 「</sub> 内線呼出ペル		「発信者番号·	優先着信 ——	
○ 着信禁止	④ 外線呼出ベルと	同じ	⊙しない		
⊙ 着信許可	〇 短いサイクル		O する		
☑ 通信中著信許可	-#				
	┌蔵別看1言──				
☑ 通話中追加呼出許可	しない			<b>•</b>	
○ ダイヤルイン番号のみ着信する	ò	⊙ ≠:	ンバーディスプレイ	非対応電話機	
○ ダイヤルイン番号、契約者回線番号で着信する		○ ナンバーディスプレイ対応電話機1			
<ul> <li>契約者回線番号のみ著信する</li> </ul>		○ ナンバーディスプレイ対応電話機2			
④ ダイヤルイン番号のチェックをしない		追加呼出遅延(ベル回数) なし 💌			
ダイヤルイン番号		ダイヤル完了タイマ 4秒 💌			
ポリューム調整 - 1+大				1+大 🔳	
応用設定 着信	転送設定(コー	ルバッ	ク設定 短縮	ダイヤル登録	
工場出荷値へ戻す 設定	一覧表示	設	定 =	ャンセル	

・設定に関する確認メッセージが表示されます。

3 内容を確認し、 をクリックします。 Laneed ViA LOOP アナロクホペート設定ユーティリティ X 疑似なりわけを行う場合、相手の電話番号を市外局番から登録してください。 OK OK 

· 〈短縮ダイヤル登録〉画面が表示されます。

4

4 短縮番号を選択し、電話番号を市外局番から入力します。"()"や" — "は入力しないでください。



・TEL1ポート、TEL2ポートでそれぞれ20件の電話番号を登録することができます。電話番号は市外局番か ら入力してください。入力するのは数字だけです。"()"や" -- "は入力しないでください。

#### ◆入力例

035950XXXX ←必ず市外局番から入力し、"()"や" - "は入力しない。 ・00~09は発信者番号優先着信、20~39はコールバック、中継機能対象番号と共用になります。

5 入力が終われば、 設 定 をクリックします。

・〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。

# 各選択ボタンの内容

ブリンタ設定	Windowsのシステムにおいて標準で使うように設定されているプリンタの設定画面が表示されます。
設定	設定した内容を有効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。
ED 刷	短縮ダイヤルを登録した一覧を印刷します。
キャンセル	設定を無効にして、〈TEL1(2)ポートの設定〉画面に戻ります。



# 設定ファイルを転送する

設定した内容をファイルに保存し、さらにその内容を有効にするために、本製品本体に設定内容を転送します。設 定した内容は転送しないと有効になりません。また、本製品の本体内に保存されている設定内容をコンピュータ に転送して保存することもできます。アナログ電話機から設定を変更したときに便利です。

# 転送方法ごとの操作手順

転送方法には、ネットワークを使った「10BASE-T転送」と、本製品のコンソールポートとコンピュータのシ リアルポートをRS-232Cケーブルでつなぐ「RS-232C転送」があります。「RS-232C転送」の場合は、別 途シリアルケーブル(クロス結線)を用意し、本製品のコンソールポートとコンピュータの間を接続してください。 シリアルケーブルの結線図・P114

# 10BASE-T転送の操作手順

10BASE-Tを使って設定内容を転送します。

↓ 〈ViA LOOP設定ユーティリティ〉画面で「設定ファイルをViA LOOPに転送」を選択し、 □次へ処ン□をク リックします。

	ViA LOOP設定ユーティリティ
このユーティリティで VA LOOPの 基本設定ができます。	ルー対機能の設定(P) 設定77(4-名: 所しい77(4-nor の 所規(年成、 の 所見(空気能定97(4-0))再能定(4) の 所見(空気能定97(4-0)) の 所しのう能定(2) 設定77(4-4) () 所し、77(4-nor)
作成済みの 設定ファイルを転送 することも可能です。	<ul> <li>◇班 00</li> <li>◇ 新規(作成</li> <li>● 第にある態定7ヶルの再能定(2)</li> <li>● 該定7ヶルをViA LOOPに転送(A)</li> </ul>

転送画面が表示されます。



#### 2 必要な内容を設定します。

🌌 Laneed ViA LOOP 設定ユーテ	лЛЭг 💌
10BASE-T転送 RS-232C転法	送   転送履歴
10BASE-T転送	
設定ファイルを VIA LOOP本体 またはパソコンに 保存します。	LAN(DBASE-Tケーフ)本使って、ViA LOOPの設定ファ(ルをハウコン して保存する事が可能です。   ・ハウコンからViA LOOPへ転送します(2)  ViA LOOPからハウコンへ保存します(3)  ViA LOOPかりアトレス:  「二場出商設定時 実置にコンパレーションパスワートが設定されている場合、転送/ 保存を行うゴコンパレーションパスワートが設定されている場合、転送/ 保存を行うゴコンパレーションパスワートンガが必要です。 コンパレーションパスワード:  「「小の大概能設定ファ(ル(2))  「新しいファ(ル.mvt を照(2)」  「新しいファ(ル.mvt を照(2)」  「新しいファ(ル.mvt を照(2)」)
	、 ( 戻る(B) へルブ

#### ●転送/保存の選択

コンピュータから本製品へ設定ファイルを転送するのか、本製品の設定内容をコンピュータに転送して保存す るのかを選択します。

#### ●ViA LOOPのIPアドレス

本製品が初期化された状態で、設定ファイルを本製品に転送する場合は、「工場出荷設定時」のチェックボック スをオンにします。すでに、設定済みの場合や本製品の設定内容をコンピュータに転送する場合は、LANイン ターフェースのIPアドレスを入力します。

#### ●コンフィグレーションパスワード

ルータ機能を設定するときに入力しているコンフィグレーションパスワードを入力します。

#### ●設定ファイル名

①転送する内容がルータ機能なのかアナログ通信機能なのかを選択します。両方同時に転送したい場合は両方の チェックボックスをチェックします。

②ファイル名は、コンピュータから本製品の本体内へ転送するときは、保存していある設定ファイル名を入力しま す。本製品の本体内からコンピュータ側に転送して保存したいときは、保存するファイル名を入力します。

3	設定が終われば、	転送(工)	をクリックします。



・設定内容の転送が始まります。



5 リセットを促すメッセージが表示されます。 (はいい) します。 Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ ジ 設定ファイルの転送が完了しました。 ViA LOOP 割を行しませか? しないツ いいえい

これで設定ファイルの転送を終了します。

- ○**Tips** ●転送できないときは、次のようなことを確認してください。
  - ・LANランプが点灯していますか。
  - ・10BASE-Tケーブルは正しく接続されていますか。
  - ・設定スイッチの"6"がONになっていませんか。
  - ・コンピュータ側の設定が「プロキシサーバ経由で接続」になっていませんか。
  - ・IPアドレスは正しいですか、ルータのIPアドレスはwinipcfg(Windows95)、winconfig (Windows98/NT4.0)でも確認できます。
  - ・すでに設定済みのパスワードを入力します。はじめて転送する場合は「工場出荷設定」を選択します。
  - ●【転送履歴】タブを選択すると、転送履歴を見ることができます。 <u>
    別ア©</u> をクリックすると履歴がクリ アされます。 最新の情報に更新() をクリックすると履歴を最新の情報に更新します。

# RS-232C転送の操作手順

↓ 〈ViA LOOP設定ユーティリティ〉画面で「設定ファイルをViA LOOPに転送」を選択し、 ☆☆☆☆ をクリックします。

	VIA LUUP設定1-FイリFイ
このユーティリティで ViA LOOPの 基本設定ができます。	<ul> <li>○ ルーダ機能の設定(8)</li></ul>
	<ul> <li>● 新規作成</li> <li>● 期にある議定ファイルの再議定()</li> </ul>
Street is	<ul> <li>アナログラ通信機能の設定(I)</li> <li>設定ファイル名:</li> <li>新しし、ファイルnvt</li> </ul>
作成済みの 設定ファイルを転送	● 新規作成
することも可能です。	<ul> <li>         ・閉このる設定ファイルの再設定(2)         ・         ・         ・</li></ul>

転送画面が表示されます。

#### 2 【RS-232C転送】タブを選択します。





#### 3 必要な内容を設定します。

Maneed ViA LOOP 設定ユーティリティ	×
10BASE-T转送 RS-232C转送 転送履歴	
RS-232C転送	
〈 戻る(B) 」 へルゴ	

#### ●転送/保存の選択

コンピュータから本製品へ設定ファイルを転送するのか、本製品の設定内容をコンピュータに転送して保存す るのかを選択します。

#### ●通信ポート

コンピュータのシリアルポート番号を設定します。設定内容をリセットしたりして、工場出荷設定時の状態に なっている場合は、「工場出荷設定時」のチェックボックスをオンにします。

#### ●コンフィグレーションパスワード

ルータ機能を設定するときに入力しているコンフィグレーションパスワードを入力します。

#### ●設定ファイル名

- ①転送する内容がルータ機能なのかアナログ通信機能なのかを選択します。両方同時に転送したい場合は両方の チェックボックスをチェックします。
- ②ファイル名は、コンピュータから本製品の本体内へ転送するときは、保存していある設定ファイル名を入力しま す。本製品の本体内からコンピュータ側に転送して保存したいときは、保存するファイル名を入力します。

<b>4</b> 🗄	没定が終われば、	転送① をクリ	ックします。
		「「71075動信機能設定ファイル②」       新しし 1ファイル ハvt       転送①	
		< 戻る(B)へルプ	

・設定内容の転送が始まります。

5 リセットを促すメッセージが表示されます。 (ない)の をクリックします。

?	設定ファイルの ViA LOOPを	転送が完了しました。 リセットしますか?
		いいえ(N)

これで設定ファイルの転送を終了します。



- ●転送できないときは、RS-232Cケーブルが正しく接続されているか、ケーブルの結線は合っているか、パス ワードは正しいかを確認してください。
  - ●【転送履歴】タブを選択すると、転送履歴を見ることができます。 <u>𝔐ア◎</u>をクリックすると履歴がクリ アされます。 <u>&新の情報に更新の</u>をクリックすると履歴を最新の情報に更新します。

# Chapter 3 アナログ電話機からの 設定と使いかた

TEL1ポートおよびTEL2ポートに接続したアナログ電話機のダイヤルを使ってアナ ログ通信機能の設定と使いかたを説明します。頻繁に設定を変更したい機能や、一 時的に設定を変更したい場合などは、設定ユーティリティを使って変更するよりも 便利です。また、一部の機能は外出先からISDN電話機などを使って設定を変更でき ます。

1.	アナログ電話機から設定する48
2.	各機能の設定リファレンス49
З.	アナログ通信機能の使いかた

# アナログ電話機から設定する

TEL1ポートまたはTEL2ポートに接続されたアナログ電話機からそれぞれのポートに対して、アナログ通信機能の設定を変更できます。なお、本製品を常時接続回線および高速ディジタル専用線で使用する場合はアナログ通信機能は使えません。

# 電話機から設定するときの操作手順

アナログ電話機のダイヤルボタンを押すことで、アナログ通信機能を設定できます。TEL1ポートに対する設定はTEL1ポートに接続したアナログ電話機からおこないます。アナログ電話機からの設定はすべての次のような流れで設定できます。

Tips

●他ポートへの設定(例えば、TEL1ポートの電話機からTEL2ポートの機能を設定する)をおこないたいときは、
 受話器を上げて、まず (※), (※)を押してから、そのあとで通常の設定操作をしてください。

●TEL1/TEL2の両ポートで同じ内容を設定するときは、どちらか一方のポートの電話機から両ポートの設定ができます。受話器を上げて ②, ④, ③を押してから、通常の設定操作をしてください。また、[着信転送]については、「#20」で両ポートの着信転送をOFFにし、「#21」で両ポートの着信転送をONにすることができます。

通話および通信中は設定や保存の作業はおこなわないでください。

1. 受話器を上げます。

・発信音が聞こえます。

- 2. 設定したい機能の機能番号を押します。
- ボタンを押します。
   「ピッピッピッ」という音が聞こえます。
- 3. その機能のパラメータをダイヤルボタンで押します。 ・「ピピピピ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5. 受話器を置きます。
- 6. すべての設定が終わったら、設定を保存します。

#### ●ダイヤルを押し間違えたときは

1回フッキングをして、手順2からやり直してください。

#### ●正しく設定されなかったときは

操作が終了したあとで、「ピピピピ」という音が聞こえなかったときは、正しく設定されていません。この場合は、1回フッキングをして、手順2からやり直してください。



# 各機能の設定リファレンス

● は有料サービスの契約が必要

# 短縮ダイヤルを登録する

TELポートごとに短縮ダイヤルを最大40か所まで登録で きます。短縮番号の00~09は発信者番号優先着信 (●P61)、20~39はコールバックおよび中継機能対象番 号と共用になります。(初期値=未登録) ◆設定ユーティリティでは●P40

- 受話器を上げます。
- 2 0, ※を押します。
- ③ ④ ④ ~ ③ ⑨ のいずれかを押して、割り当てた い短縮番号を登録します。
- ①~⑦を使って、登録する相手先の電話番号を市 外局番から押します。
- 5 (#)を押します。
- 受話器を置きます。
- ➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。 ●P62

#### 注意

●コールバックをおこなう電話番号には、サブアドレ スは登録しないでください。

# `**`∏**Tips

- ●電話番号は最大20ケタ、サブアドレスは最大19ケタで数字(0 ~9)だけを登録できます。アドレスとサブアドレスの区切りに は ※を押します。
- ●コールバックまたは中継機能をおこなう電話番号があれば、短 縮番号20~39に登録してください。登録するときは、必ず 「コールバック機能を利用する(◆P68)」または「中継機能を利 用する(◆P69)」をお読みください。

#### 短縮ダイヤルの削除

- 受話器を上げる
- ② ③、 ⊗、 短縮番号、 ∉を押す
- ③ 受話器を置く

# ▲ ナンバーディスプレイの使用有無を設定する

ナンバーディスプレイ装置の機能を利用するには、対応電話 機が接続されているTELポートに「ナンバーディスプレイを 使用する」という設定をする必要があります。ナンバーディス プレイ装置を呼び出す呼出音(起動信号)のON/OFFの時間 は0.5秒が規定値ですが、本製品では、この時間をTELポー トごとに変更することができます。この項目では、実際にナ ンバーディスプレイ装置を使用するのかしないのかを、正し く設定してください。使用状態と設定値が異なると電話機ま たはナンバーディスプレイ装置が誤動作を起こすことがあり ます。(初期値=ナンバーディスプレイ装置を使用しない) ◆設定ユーティリティでは●P26



■ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

#### 注意

●1300Hz無鳴動着信を利用する場合でも、この設定 は有効になります。1300Hz無鳴動着信を利用する 場合はご注意ください。

"The second seco
--

- ●ナンバーディスプレイ対応電話機を使用する場合、停電等によりナンバーディ スプレイ機能が利用できないときは、呼出音が鳴ってから6秒経過後に受話器 を取るようにしてください。長時間このような状態が続く場合は、一時的に「ナ ンバーディスプレイ非対応電話機」に設定を変更してください。
- ●ナンバーディスプレイ対応電話機を使用している状態で着信転送時の呼出 ベルや追加呼出遅延を利用すると、電話機によっては着信転送時や追加呼 出の遅延呼出回数が設定値より1~2回少ないことがあります。このような 場合は、呼出回数を多めに設定してください。
- ●ナンバーディスプレイが電話のかかってくるタイミングによって正常に動作しない場合は、状況に合わせて次のような設定をおこなってみてください。
   ・通常の呼出音より短い間隔でベルがなり、ナンバーディスプレイができない。
  - → 〈応用設定〉画面で[ベル周波数]を変更してみてください。また、「ナ ンパーディスプレイ対応電話機2」に設定してみてください。
  - ・短い呼出音は鳴らないが、ナンバーディスプレイが表示されない。
  - →〈基本設定〉画面で[ボリューム調整]を変更してみてください。



# **Tips**

- ●「追っかけ転送機能(→P53)」を利用すると、指定した相手先の電話が通話中の場合に、さらに別に指定した相手先に転送することができます。
- ●NTTのフレックスホンサービスを契約していなくても、本製品の「フリー転送機能(●P52」を利用することで、外部からの電話を指定した相手先にダイレクトで転送することができます。
- ●リモート設定(●P52)を使うと、ISDN公衆電話など、本製品に接続されていない電話機から着信転送機能の設定/解除ができます。
- ●呼び出しベル回数を設定(●P51)すると、転送時に設定回数だ け呼出音を鳴らしてから転送することができます。

#### 着信転送の登録の削除

- 受話器を上げる
- ② ②, ※, ②, ④を押す
- ③ 受話器を置く

# ♦ 着信転送設定 (着信転送機能の有効/無効)

NTTのフレックスホンサービス(有料)の「着信転送機能」 を利用すると、外部からの電話を指定した相手先にダイレ クトで転送することができます。この機能を利用するかし ないかを設定します。外出時に一時的に変更する場合は、 電話機からおこなうほうが便利です。(初期値=0) ◆設定ユーティリティでは●P34



#### 受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

# **`T**ips

●設定ユーティリティの説明に、着信転送機能の有効/無効に関する詳しい説明があります。→P34



▶ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

## ▲ 着信転送設定 (暗証番号を登録する)

ISDN公衆電話、サブアドレス機能付きのPHSなど本製品 に接続していない電話機から、リモート設定により着信転 送機能の設定・解除をおこなうことができます。リモート 設定をおこなうときは、あらかじめ着信転送設定用の暗証 番号と着信転送解除用の暗証番号を登録している必要があ ります。暗証番号はTELポートごとに設定できます。 (初期値=未登録)

◆設定ユーティリティでは●P36



フリー転送を設定する

(初期値=フリー転送許可1)

NTTのフレックスホンサービスをご利用でない場合でも、

本製品の「フリー転送機能」を使うことで、外部からの電 話を指定した相手に転送することができます。フリー転送

を有効にしていても、フレックスホンサービスの契約が有

効になっているときは、フレックスホンサービスのほうが

優先されます。フリー転送の設定値の内容など、より詳し い説明は設定ユーティリティでの説明をお読みください。

52

③ 受話器を置く

# 追っかけ転送を設定する

追っかけ転送を登録しておくと、転送先が話中の場合に、 さらに別の相手に電話を転送することができます。なお、 NTTのフレックスホンサービスでは、追っかけ転送はでき ません。(初期値=未登録) ◆設定ユーティリティでは◆P34

 受話器を上げます。
 ②, ※を押します。
 ③を押します。
 ③を押します。
 ④~④を使って、追っかけ転送先の電話番号を市 外局番から押します。
 ● を押します。
 ● 支話器を置きます。
 ● すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。 - P62

#### 追っかけ転送先の登録の取り消し

- 受話器を上げる
- ② ②, ※, ⑧, 剰を押す
- ③ 受話器を置く

# 着信種別を設定する

電話の着信状態を設定します。設定値の詳しい説明は設定 ユーティリティでの説明ページをお読みください。なお、 通話中着信許可または通話中追加呼出許可に設定した場 合、FAXやモデムが通信中に割込音のために障害を起こす ことがあります。このような場合は、設定を変更してくだ さい。(初期値=追加呼出許可)

◆設定ユーティリティでは●P23



# **Tips**

- ●追加呼出や通話中追加呼出の着信音や割込音を鳴らすことができます。 ← P58
- ●通信中着信許可または通話中追加呼出許可の設定を有効にする には、通信中着信通知サービスをNTTと契約(無料)する必要があ ります。



# ▶ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62



受話器を上げます。

- 2 (5), 🛞を押します。
- 3 (0)~(9)を使って、登録するダイヤルイン番号を押 します。

🛃 🗰 を押します。

受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。←P62

■契約者回線番号のみ着信する

受話器を上げます。

2 (5), 🛞を押します。

3 🛞, (#)を押します。

受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

■ダイヤルイン番号のチェックをしない

受話器を上げます。

- 🕗 🌀 , 🛞 を押します。
- 3 (#)を押します。

受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。←P62

# サブアドレスを設定する

サブアドレスを使うとダイヤルインサービスを利用しなく ても、電話番号に続いてサブアドレスをダイヤルすること で、TEL1またはTEL2ポートを区別して着信させること ができます。ただし、サブアドレスが利用できるのは、発 信側もINSネット64に加入している必要があります。一 般回線から電話やFAXを受ける場合は、ダイヤルインサー ビスを利用するほうが便利です。サブアドレスはポートご とに、19桁まで登録できます。(初期値=サブアドレスの チェックをしない)

◆設定ユーティリティでは<del>■</del>P32

次のいずれかの設定ができます。詳しくは**-**P32 ・サブアドレスのみ着信する ・サブアドレスありとサブアドレスなしを着信する ・サブアドレスなしのみ着信する

・サブアドレスのチェックをしない

■サブアドレスのみ着信する



すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62



#### 56



ダイヤル完了タイマを設定する

ダイヤルを完了したあとに電話機の (#)を押すとすぐに発

信されますが、(#)を押さなかったときに、何秒待って発

信するかを設定します。ダイヤル完了タイマを有効にする

場合は1~9秒まで設定できます。ダイヤル完了タイマは、

# 通話時のボリュームを調整する

通話時の受話音量(ボリューム)を調整します。「大」また は「小」を選択できます。(初期値=大) ◆設定ユーティリティでは◆P27



▶ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。◆P62



# **Tips**

- ●着信種別で追加呼出または通信中追加呼出を選択していないと きは無効です。
- ●TEL1では追加呼出を遅らせることはできません。 TEL1での設 定は、通信中追加呼出のみ有効です。

# フッキングを設定する

フッキングを有効にするかどうかを設定します。フッキン グとは、電話機のフックスイッチを押すことです。コード レスホンや多機能電話機では、キャッチボタン(フックボ タン、フラッシュボタン)を押します。1秒以上押し続ける と電話が切れることがあります。「無効」を選択するとフ ッキングを使った機能は利用できなくなります。「通信中 発信のみ無効|を選択すると通話中のみフッキングを無効 にします。(初期値=有効)

◆設定ユーティリティでは●P29



すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。 **●**P62

有効にするとフッキングが使える機能 で**Tips** (INSネット64の契約が必要な機能もあります)

コールウェイティングをするとき / 通話中に発信するとき / 通話・ 保留の切替 / 外線通話を転送するとき / 外線通話を内線転送する とき、および内線転送を中止するとき / 三者通話(ミキシング) を開始・解除するとき / 通信中機器移動を保留するとき / 特殊な番 号にダイヤルするとき / ダイヤルの途中で、ダイヤルをやり直す とき

# 内線呼出ベルを設定する

内線からの電話と外線からの電話を区別できるように、内線の電話機からの着信音を短いサイクルで鳴らすことができます。「外線呼出ベルと同じ」を選択すると、外線と内線の呼出ベルは同じ音になります。「短いサイクル」を選択すると、内線の呼出ベルは外線の呼出ベルとり短いサイクルで鳴ります。(初期値=外線呼出ベルと同じ) ◆設定ユーティリティでは◆P23

- 受話器を上げます。
- 2 9, 🖋を押します。
  - ③ ④ または ③ ① のいずれかを押します。
     30: 外線呼出ベルと同じ
     31: 短いサイクル

#### 4 受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。 ← P62

# 切断音制御を設定する

INSネット64から送られてくる話中音や切断後のダイヤ ルトーンは、一定時間を経過すると停止します。停止後も、 本製品から切断音を流すか、無音にするかを設定します。 (初期値=切断音)

◆設定ユーティリティでは●P30



● すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

# ※ ➡ 識別着信を設定する ※一部有料

識別着信を設定すると、設定した条件で電話を着信します。 TELポート毎に特定の相手からの電話だけ着信させたり、 発信者番号を通知してこない相手からの着信を拒否するこ とができます。迷惑電話などの防止策などにも利用できま す。一般回線からの発信者番号通知や公衆電話からの通知 を受けるにはINSナンバーディスプレイサービスの契約が 必要です。また、INSなりわけの着信通知を受けるには INSなりわけの契約が必要です。(初期値=しない) ◆設定ユーティリティでは◆P24

受話器を上げます。

2 9, ※を押します。

③ ④ ~ ⑤ ⑥ のいずれかを押します。
 項目の詳細・P24

- 50 : しない
- 51:短縮登録
- 52:短縮登録·INSなりわけ
- 53:発信者番号通知·INSなりわけ
- 54:短縮登録·INSなりわけ·公衆電話
- 55:発信者番号通知·INSなりわけ・公衆電話
- 56: INSなりわけ以外の発信者番号通知拒否以外

#### 🖞 受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。←P62

# FAX無鳴動着信を設定する

HLCの通知ができない一般電話からFAXの着信を無鳴動 (1300Hz)着信することができます。設定はTELポートご とにいろいろなパターンを選択できます。(初期値=禁止) ◆設定ユーティリティでは●P31



▶ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。◆P62

# ベル周波数を設定する

電話機のベルの周波数を設定できます。着信音の鳴りかた がおかしいとき、ナンバーディスプレイの動作が不安定なと き以外は、設定を変更する必要はありません。周波数の数 値が大きいほど高い音になります。(初期値=70:16.7Hz) ◆設定ユーティリティでは◆P32



2 9, 🛞を押します。

# 3 ⑦ @ ~ ⑦ ③ のいずれかを押します。

70 : 16.7Hz 71 : 20.0Hz 72 : 25.0Hz 73 : 33.3Hz

#### 受話器を置きます。

■ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

# 発信者番号優先着信を設定する

特定の相手からの電話をTEL1ポートまたはTEL2ポートに 強制的に着信させることができます。この設定をおこなう と、相手がかけた電話番号とTELポートに登録したダイヤ ルイン番号、サブアドレス、機器種別が異なっていても、こ の設定で指定したTELポートに着信します。

「する」を選択した場合は、短縮ダイヤルの00~09のいず れかに相手の電話番号を登録する必要があります (◆P49)。TEL1ポートとTEL2ポートで同じ番号を登録し た場合は、TEL1ポートの設定が優先されます。(初期値=し ない)

◆設定ユーティリティでは●P24



# **Tips**

- ●中継機能、コールバック機能を設定している場合は、必ず「発信者番号を通知する」に設定してください。 → P68, 69
- ●INSネット64を契約するときは、発信者番号通知サービスを 「呼毎通知許可」で契約してください。
- ●指定されたTELポートが通話中の場合、別ポートの呼出ベルは 鳴りません。
- ●グローバルセレクト、ダイヤルイン、サブアドレスおよび機器 種別が設定値と異なっていても、指定されたTELポートの呼出 ベルが鳴ります。

# 疑似なりわけを設定する

NTTのなりわけサービスを契約していなくても、短縮ダイ ヤル登録している相手から着信があった場合、電話を通常 より短いサイクルで呼出ベルが鳴る「なりわけ呼出ベル」 と同じように鳴らすことができます。設定はTELポートご とにできます。(初期値=疑似なりわけを使用しない) ◆設定ユーティリティでは◆P31

- ] 受話器を上げます。
- 2 ①, ※を押します。
- 3 (5) (0) または(5) (1) を押します。
   50: 疑似なりわけを使用しない
   51: 疑似なりわけを使用する
  - 31.疑似なり1月を使用する

#### 受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

# 設定した内容を保存する

すべての設定が終われば、設定の保存作業をおこないます。 TEL1およびTEL2ポートどちらから保存作業をおこなっ ても、両方のポートの設定内容が同時に保存されます。設 定の保存には約3秒かかりますので、操作後すぐに通話し ないでください。

- ┃ 受話器を取り上げます。
- 2 ⑨, 🛞, 🏶 を押します。 正しく保存されれば「ピピピピ」と音がします。
- 3 受話器を置きます。
- ●これで保存作業は終わりです。



# アナログ通信機能の使いかた

# 電話をかける

TEL1、TEL2ポートには、一般のアナログ回線で使用しているプッシュボタン式(PB式)の電話機やファックス、 モデムなどが接続できます。ダイヤル式(DB式)の電話機 は使用できません。

電話をかけるときは、受話器を取り上げて(またはオンフ ック状態で)、電話番号をダイヤルします。電話機が2台接 続されているときは、同時に別々の相手に電話をかけるこ とができます。



#### 注意

●ダイヤル中に4秒以上の間隔をあけると、 (④を押さ なくても発信されます。

● ⑦ ⑧ などの特殊な記号を使ったダイヤルをする場合、先頭に ⑦ がつく場合は、通常どおりダイヤルしてください。私設交換機などで途中に ⑦ ⑧ を発信する場合は、フッキングをおこない、ダイヤルトーンが消えたことを確認してから発信し、再度フッキングをおこなってください。

# `**`***`***∏**Tips

●ダイヤルを押し間違えたときは、フッキングをして、手順 2 か らやり直します。

●サブアドレスを追加して発信するには、相手の電話番号(アドレス)を押したあとに ④ を押します。続いてサブアドレスの番号 を押します。

●通話時のボリュームを調整するには●P57

# 短縮ダイヤルで電話をかける (短縮ダイヤル)

短縮ダイヤルに登録された相手先に電話します。3つボタ ン操作で相手に電話をかけることができます。



#### **Tips**

●[切断音制御]が「無音」に設定されていると、相手側が話中のとき や相手側が電話を切ったあとに、一定時間話中音が続き、そのあ と無音になります。

# 同じ相手にかけ直す (リダイヤル)

受話器を上げます。

🛞を2回押します。

- 相手の方が出たら、お話しします。
  - お話が終わったら、受話器を置きます。
- **Tips**
- ●[切断音制御]が「無音」に設定されていると、相手側が話中のとき や相手側が電話を切ったあとに、一定時間話中音が続き、そのあ と無音になります。

# 内線で話しをする

もう一方のTELポートに接続された電話機を呼び出して、 内線通話をすることができます。



#### **Tips**

- ●内線呼出ベルの呼出音を変更することができます。●P59
- ⑦ がない電話機では、 ② を押したあと、約5秒待つと相手を 呼び出します。
- ●相手の電話機が話中のときやフリー転送中のときは、話中音が 聞こえます。
- ●内線通話中は、外線からの電話は受け付けません。
- ●Bチャンネルを使用中のときも、内線で通話することができます。
- ●内線どうしの通話は、通信クラスの設定に影響されることはありません。

# 電話を受ける

着信があると、TELポートに接続されたアナログ電話機で 受けることができます。

#### 着信音が鳴ります。

受話器を上げます。相手の方と話します。

お話が終われば、受話器を置きます。

#### 着信種別(●P53)による電話機の呼び出しかた

#### ・着信禁止

着信しても呼び出しません。発信のみできます。

#### ・着信許可

TEL1ポートを優先的に呼び出します。TEL1ポートが 使用中のときは、TEL2ポートを呼び出します。

#### ・通信中着信許可

通話中に別の相手から着信があると、「ピッピッ、ピッ ピッ・・・」という音で着信を知らせます。コールウェイ ティング機能を利用するときに設定します。

#### ・追加呼出許可

TEL1ポートとTEL2ポートを呼び出します。

#### ・通話中追加呼出許可

通話中に別の相手から着信があると「ピッピッ、ピッピ ッ・・・」という着信音で着信を知らせるとともに、他の 内線電話機でも着信音が鳴ります。

# **``[Tips**

- ●「通信中着信許可」を設定すると、話中に別の相手の電話を受けることができます。
- ●「着信転送」を使うと、かかってきた電話を他の相手に転送できます。

#### 外線を内線に取り次ぐ (内線転送)

外部からの電話を他の内線電話に取り次ぎます。TEL1、 TEL2のどちらの電話機からも同じ操作で取り次ぐことが できます。



2 を押します。

呼び出した電話が応答したら、転送することを伝え ます。

受話器を置きます。

#### **Tips**

- ●内線呼出ベルの呼出音を変更することができます。 ●P59
- ●手順2の呼出中に受話器を置くと、転送相手が応答する前に転送することができます。
- ●転送相手が話中のときは、話中音が聞こえます。フッキングすると外線の相手と話すことができます。
- ●転送相手の応答がない場合、フッキングすると外線の相手と話すことができます。
- ●[切断音制御]が「無音」に設定されていると、相手側が話中のとき や相手側が電話を切ったあとに、一定時間話中音が続き、そのあ と無音になります。



## 短縮ダイヤルに登録した相手の電話だけを受ける (識別着信)

[識別着信]を設定することで、設定した条件に合った電話 番号だけを着信するようになります。「短縮登録」を選択 している場合は、短縮ダイヤル登録されている電話番号と 特番("110"と"119")だけを着信します。この設定は TEL1ポートとTEL2ポートでそれぞれについて設定でき ます。識別着信の設定の詳しい内容については、24ペー ジ「識別着信」をお読みください。また、電話機からの設 定方法については、60ページ「識別着信をする」を設定 してください。



- ●短縮ダイヤル番号を登録するには→P49
- ●TEL1とTEL2のどちらのポートにも着信させたいとき は、それぞれのポートについて、同じ電話番号を短縮ダ イヤル番号に登録してください。
- ●[着信種別]で、「通話中追加呼出許可」が設定されてい ても、識別着信の設定が優先されます。

#### 3人で話す (三者通話)

外線で通話中に、別の相手に電話をかけ、3人で同時に話 すことができます。三者通話中は、新たな電話を受けるこ とはできません。

- ※この説明は、ViA LOOPの機能として利用する場合の説明 です。ViA LOOPの機能として利用する場合は無料ですが、 NTTのフレックスホンサービスで同様の機能を利用する 場合はNTTと契約(有料)をおこなう必要があります。
  - 話中の相手に待ってもらうように伝え、1回フッキングします。
- 2 ①を押します。相手は保留音になります。
- 0~9 を使って、別の相手の電話番号をダイヤルします。
- 4 相手から応答があったら、お話しください。

相手に待ってもらうように伝え、1回フッキングします。

**3**を押すと、3人で同時にお話しできます。

お話しが終わったら、受話器を置きます。

# `**₿**Tips

- ●手順 3 で、別の相手が話中または応答しない場合は、受話器を 置くと着信音が鳴ります。受話器を取り上げると、保留にして おいた相手と通話できます。
- ●相手の方を保留にできる時間は約3分です。約3分たつと保留している相手の電話は自動的に切れます。電話が切れる約10秒前に警告音が鳴ります。
- ●2番目にかけた相手とお話が終わり、受話器を置くと着信音が鳴 ります。受話器を取り上げると、保留にしておいた相手と通話 できます。
- ●手順 1 でフッキングしたあと、手順 2 で ① を押す前に約3秒 以上たつと「ピッピッピッピッ」と音が聞こえます。この場合 は ① を押さずに手順 3 から操作してください。
- ●手順 4 で、1回フッキングしてから <sup>(1)</sup>を押すと、自分以外の二 人だけで通話することができます。

# コールバック機能を利用する

コールバック機能は、電話をかけてきた相手に自動的に電話をかけ直す機能です。例えば、携帯電話やPHSから会社に電話をかけたとき、コールバック機能を使うと通話料金を会社側に負担してもらうことができます。コールバック機能を利用するには、ここでの設定とは別にコールバックする電話番号を短縮ダイヤル番号の20~39のいずれかに登録する必要があります。

#### ■コールバック機能を設定する (初期値=コールバックしない)

受話器を上げます。

#### (1), 🖈を押します。

#### (0)~(2)のいずれかを押します。

- 0:コールバックしない
- 1:相手番号が登録されている場合のみ、コールバックする
- 2:相手番号が登録されているとき、または発信者番号通 知のない場合もコールバックする。

## 4 受話器を置きます。

➡ すべての設定が終わった時点で、保存作業をしてく ださい。●P62

# **Tips**

- ●発信者番号通知機能を持たない電話機でコールバック機能を利用したいときは、短縮ダイヤル番号の20に登録し、手順 で②を選択します。
- ●コールバック機能の短縮ダイヤル番号20~39は、中継機能の 短縮番号と共有になります。
- ●中継機能、コールバック機能、着信転送機能は同時に設定しないでくだい。

#### ■コールバック機能を利用する (外から電話をかける方)

短縮ダイヤル番号20~39に電話番号が登録されている電話機からの操作方法です。

<b>1</b> TEL1ポートまたはTEL2ポートに電話をかけます。
2 呼出音が聞こえたら4回以内に、受話器を置きます。
<b>3</b> しばらくすると、呼出音がなります。
<b>4</b> 受話器を取り上げて、お話しします。
5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

# **Tips**

- ●コールバックしたくないときは、手順 2 で電話を切らずにその まま呼び出しを続けてください。
- 発信者番号通知機能を持たない電話からはコールバックできません。ただし、短縮ダイヤル番号20に登録した電話機だけは、発信者番号通知機能を持たなくてもコールバックを利用できます。
- ●中継機能、コールバック機能、着信転送機能は同時に利用しないでくだい。

# ■コールバック機能を利用する (TEL1/2ポート側の電話機)

TEL1ポートまたはTEL2ポートに接続されている電話機 での操作方法です。





●手順 2 で呼出音が鳴ってすぐに受話器を取り上げるとコールバ ックせずに、かけてきた相手とつながります。

#### 中継機能を利用する (中継許可指定)

中継機能は、あらかじめ登録されている電話番号から電話 がかかってきたとき、あるいは、サブアドレスに中継先電 話番号が含まれている場合に、相手先へ電話を転送する機 能です。この機能を使うことによって、PHS から携帯電 話に電話をかけることもできます。なお、この機能を使う には、発信者側にPHS のような発信者番号通知機能とサ ブアドレス機能を持つ機器が必要です。



相手から応答があったら、お話しします。

# ▲INSボイスワープ、 ダイヤルQ2パスワード機能を利用する

INSネット64の付加サービスであるINSボイスワープを利用することができます。INSボイスワープは、フレックスホンの着信転送に比べて、高機能な着信転送サービスです。また、この設定ではダイヤルQ2のパスワードを変更することができます。INSボイスワープ、ダイヤルQ2パスワード機能を利用するにはNTTとの契約(有料)が必要です。



- 2 0~9 を使って、INSボイスワープまたはダイヤ ルQ2の電話番号をダイヤルします。
- **3 ()**~**()**を使って、ガイダンスに従って入力操作を おこないます。

受話器を置きます。

## 注意

- ●ボイスワープをご利用になるときは、発信者番号通知(④, ④, ⑦)にしてください。
- ●ボイスワープの契約番号を契約者番号で契約しているときは、契約者番号を③, ④, 〈契約者番号〉,
   ⑦ で登録してください。ダイヤルインで契約されているときは、契約者番号を③, ④, 〈ダイヤルイン番号〉, ④ で登録してください。



- ●INSボイスワープには、次のようなメリットがあります。
  - ・転送方法を、「無条件に転送」、「応答しない場合に転送」、「話中のときに転送」から選べます。
  - ・転送先を5つまで登録でき、その中から転送先を選択できます。
  - ・外出先から転送先を変更できます。



**Tips** 

が再開できません。

●同じ回線に接続された別の電話機から通話を再開するには、中断する通話を識別するための番号(0~9)を使用してください。 中断している通話を識別するための番号を使用しないと、通話

# 70
# Chapter 4 設定ユーティリティを使って 設定する

ViA LOOPの持っているルータ機能を活用するために、設定ユーティリティを使ったルータ機能の設定方法を説明します。

1.	ルータ機能を使ったシステム構築例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2.	設定ユーティリティから設定する
З.	基本機能の設定について
4.	拡張機能を設定する
5.	設定情報ファイルを見る
6.	パスワードを変更する

# ルータを使ったシステムの構築パターン

ここでは、本製品を使ってできるシステムの構築パターンを紹介しています。お客様のシステム構築とルータ 機能の設定の参考にしてください。

# ケースA: ISDNダイヤルアップ端末型

ISDNダイヤルアップ端末型でプロパイダと契約している場合やOCNダイヤルアクセスサービスを契約している場合のパターンです。NAT+機能を利用することで、複数の端末が同時にインターネットに接続できます。なお、基本設定に関する詳細な説明は「スタートガイド」をお読みください。



#### ●設定項目と設定内容

設定項目		設定內容	
WAN回線の選択		ISDN回線	
	ISDN番号	本製品が使用するISDN番号	
	サブアドレス	「なし」で可。使用する場合はISDN回線のサブアドレス	
ISDN回線の設定	PPP認証	使用する	
	認証アカウント	お客様が契約したプロバイダから提供される接続ID	
	認証パスワード	お客様が契約したプロバイダから提供される接続パスワード	
	ターゲット名称	接続先が識別できる任意の名称	
接続相手の設定	ISDN番号	プロバイダと接続する同期接続用ISDNアクセスポイントの電話番号	
	サブアドレス	プロバイダが提供している場合は、その同期接続用ISDNアクセスポイントのサブアドレス	
LANインターフェース/	IPアドレス設定	本製品のLANインターフェースのIPアドレス	
IPアドレス設定	サブネットマスクパターン	本製品のLANインターフェースのサブネットマスク	
DHCPサーバ設定		ドメインネームサーバのアドレスには、プロバイダが提供されたIPアド レスを設定 ドメイン名称、NetBIOSは使用しない	

※設定ユーティリティで新規作成すると次の設定が自動的におこなわれます。

・NAT+機能を使用する

・RIPスタティック設定を「ISDN回線側へのデフォルトルート」にする

# ケースB: OCNエコノミーなどの常時接続型サービス

#### 契約IPアドレスを使用しない場合 (LANがすでに敷設されている場合またはアドレス変換を使う場合)



#### 契約IPアドレスを使用する場合 (LANを新規に導入する場合)



#### ●設定項目と設定内容

設定項目		設定内容	
WAN回線の選択		HSD回線	
回線速度の設定		HSDの回線速度(OCNエコノミーでは128kbps固定)	
契約IPアドレスの	契約IPアドレス	常時接続サービスの業者から提供された契約IPアドレス	
設定	マスクパターン	常時接続サービスの業者から提供された契約IPアドレスマスク	
	契約IPアドレス	すでにLANが敷設されている場合は「使用しない」 LANを初期に導入する場合は、「使用する」	
LANインターフェース の設定	IPアドレス※1	本製品に割り当てるIPアドレス	
	サブネットマスク パターン※1	本製品のLAN側のサブネットマスク	
DHCPサーバ設定		ドメインネームサーバのアドレスは、常時接続サービスの業者から提供された IPアドレスを設定 ドメイン名称、NetBIOSは使用しない	

ドメイン名称、ドメインネームサーバーのアドレスは、常時接続サービスの業者から通知された内容を設定します。

※1 契約IPアドレスを使用するときは設定不要

#### ●設定ユーティリティで新規作成すると次の設定が自動的におこなわれます。

・NAT+機能を使用する

・RIPスタティック設定を「高速ディジタル専用線へのデフォルトルート」にする ※これらは応用設定で変更可能です。

# ケースC: ISDNダイヤルアップ対応1対1型



●LAN側のIPアドレスはお客様のネットワーク管理者から指定を受けてください。 ●WAN側のIPアドレスはLAN側のIPアドレスと同じになります。

#### ●設定項目と設定内容

#### 〈基本設定〉

設定項目		設定內容	
WAN回線の選択		ISDN回線	
	ISDN番号	本製品が使用するISDN番号	
	サブアドレス	ISDN回線のサブアドレス	
ISDN回線の設定	PPP認証	お客様のネットワーク管理者とご相談ください。	
	認証アカウント	PPP認証を使用する場合は、本製品の接続IDをご用意ください。	
	認証パスワード	PPP認証を使用する場合は本製品の接続パスワードをご用意ください。	
	ターゲット名称	接続先が識別できる任意の名称	
接続相手の設定	ISDN番号	接続先の同期接続用ISDNアクセスポイントの電話番号	
	サブアドレス	接続先の同期接続用ISDNアクセスポイントのサブアドレス	
LANインターフェース/	IPアドレス設定	お客様のネットワーク管理者から指定を受けた本製品のLANインター フェースのIPアドレス	
IPアドレス設定	サブネットマスクパターン	お客様のネットワーク管理者から指定を受けた本製品のLANインター フェースのサブネットマスク	
	DHCP機能	お客様のネットワーク管理者とご相談ください。	
	拡張通知機能と通知項目	お客様のネットワーク管理者とご相談ください。	

#### 〈拡張設定〉

設定項目		設定内容	
接結相手の設定	着信認証方法	※1 お客様のネットワーク管理者とご相談ください。	
接続相子の設定	パスワード	※1 着信認証に「CHAP」を選択した場合は、接続相手を認証できるパスワード	
	IPアドレスあり	IPアドレスはLANインターフェースと同じ ネットマスクはLANインターフェースのサブネットマスクパターンと同じ	
IPアドレス設定	NAT+	使用しない	
	複数相手接続	使用しない	
IPアドレス変換設定	IPアドレス変換設定	「アドレス変換機能」は使用しない	

※1 本製品が予期しない着呼を受けないための設定です。この設定は〈ISDN接続相手の設定〉でおこないます。

●設定ユーティリティで新規作成する場合、「NAT+機能」は自動的に「使用する」状態になりますが、拡張メ ニューで「使用しない」に変更します。この設定は、応用設定で変更することができます。

# ケースD: ISDNダイヤルアップ複数相手接続型



#### ●設定項目と設定内容

#### 〈基本設定〉

設定項目		設定内容
WAN回線の選択		ISDN回線
	ISDN番号	本製品が使用するISDN番号
	サブアドレス	ISDN回線のサブアドレス
	PPP認証	お客様のネットワーク管理者とご相談ください。
ISDN回線の設定	認証アカウント	PPP認証を使用する場合は、お客様のネットワーク管理者が提供する本製品の 接続IDをご用意ください。
	認証パスワード	PPP認証を使用する場合は、お客様のネットワーク管理者が提供する本製品の 接続パスワードをご用意ください。
	ターゲット名称	接続先が識別できる任意の名称
	ISDN番号	接続先の同期接続用ISDNアクセスポイントの電話番号
	サブアドレス	接続先の同期接続用ISDNアクセスポイントのサブアドレス
接続相手の設定	着信認証方法	お客様のネットワーク管理者とご相談ください。
	パスワード	「着信認証方法」に「CHAP」または「PAP」を選択したときは、接続相手を認証できるパスワード
	バルク転送	しない
LANインターフェース/	IPアドレス設定	お客様のネットワーク管理者から指定を受けた本製品のLANインターフェースのIPアドレス
IPアドレス設定	サブネットマスク パターン	お客様のネットワーク管理者から指定を受けた本製品のLANインターフェースのサブネットマスク
DHCPサーバ設定		お客様のネットワーク管理者とご相談ください。

### 〈拡張設定〉

設定項目		設定内容
接続相手の設定		2番目の接続相手を登録する
	IPアドレスあり	IPアドレスはLANインターフェースと同じ ネットマスクはLANインターフェースのサブネットマスクパターンと同じ
	NAT+	使用しない
IPアドレス設定	複数相手接続を 使用するルータの ISDNアドレス	IPアドレスは、お客様のネットワーク管理者から指定を受けた本製品のWANインターフェースのIPアドレスネットマスクは、お客様のネットワーク管理者から指定を受けた本製品のWANインターフェースのサブネットマスク
	複数相手接続	使用する 接続相手の設定
ルート情報設定		「WAN側のデフォルトルート」を削除する 接続相手のLAN側のネットワークへのスタティックルートを登録する
IPアドレス変換設定	アドレス変換設定	「アドレス変換機能」は使用しない



本製品の設定ユーティリティを使うとアナログ通信機能だけでなくルータ機能の設定をコンピュータ上からGUI を使って設定できます。設定内容はファイルに保存され、10BASE-TまたはRS-232C経由で本製品に転送さ れます。

# メイン設定メニュー画面を表示する

## 〈メイン設定メニュー〉画面を表示する

設定ユーティリティの〈ルータ機能〉の設定画面を表示します。

#### | 設定ユーティリティを起動します。

· [スタート]→[プログラム]→[ViALOOP6010設定ユーティリティ]→[ViALOOP6010設定ユーティリティ]を選択します。





3 新規作成するか既にあるファイルを再設定するかを選択します。

-● ルータ機能の設定(R) 設定ファイル名:	
新ししリァイルnvr	
○ 新規作成 ○ 既にある設定ファイルの再設定(1)	参照(Z)

#### ➡ 新規作成のとき

「新規作成」を選択し、[設定ファイル名]にファイル名を入力し、 次へゆ> をクリックします。手順 4B へ進みます。

#### ▶ 既存の設定ファイルを呼び出すとき

「既にある設定ファイルの再設定」を選択し、呼び出すファイル名を入力し、 <u>冰へ@></u>をクリックします。 手順 4A へ進みます。

● ● 「「「」をクリックするとツリー上から選択できます。

4A 前回、作成したバスワードを入力し、	<b>4B</b> 〈パスワード設定〉画面が表示されますので、
<u></u> をクリックします。	新してハスリートを設定してくたさい。
を Lanced ViA LOOP 話をユーチベリティ - 折し入りすんかが   ハ ペ スワート 花 記証   バスワードは   、 パン マートのと記述れます。   、 スワート いび記述れます。   、 スワート いび記述れます。   、 スワート いび記述れます。   、 スワート いび記述れます。   、 スワート に   、 スワート	
5A 〈メイン設定メニュー〉画面が表示されます。 踏Lareed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しんソフィんのMM	5B 〈接続回線の選択〉画面が表示されます。
メ化設定メニュー         ビー         ビー         ビー         ビー         ビー         ビー         ジストロロワロ         各株設定を行います。         イ         パワワート変更	接続回線の選択
正ひ迎 へんび     パン     パ	(原2個) (原2個) (原2個) (原2個) (第2個) (

6A [	拡張設定]では、 さらに〈拡張設定 <sup>組</sup> laned VA LOOP 酸デューティリテ	ボタンをクリックすると、 メニュー〉画面が表示されます。 < - ħi(メ)ን/ムww 🛛 🛛 拡張設定メニュー
	VA LOOPの S種数を行います。 メート が用き 潮んでくださいね。	パル地送設定           ISDN構成の設定           IP7ドルス装填設定           A-Ի情報総定           フィルジア語定           DHOP設定

このあとは、次の一覧を参考に設定したい項目のあるページをお読みください。

●基本設定について●「スタートガイド」をお読みください。

●拡張設定について([拡張設定]をクリックすると、〈拡張設定メニュー〉画面が表示されます。)

- ・バルク転送の設定●P83
- ・ルート情報の設定●P94
- · ISDN関連の設定●P84
- ・フィルタリング設定●P95
- ・IPアドレスの設定●P88
- ・DHCPの設定●P101
- ・IPアドレス変換設定●P91

●設定ファイル情報●P103

●パスワード変更●P104

#### ■終了するには

- ①〈メイン設定メニュー〉画面で、 厚30 をクリックすると、〈設定ユーティリティ〉画面に戻ります。
- (2) 開ご をクリックすると、終了することを確認するメッセージが表示されます。よろしければ、
   (二) ない(2) を押すと終了します。

## 設定したファイルは最後に必ず転送します

変更した設定内容を有効にするには設定ファイルを保存し、保存した設定ファイルの内容を必ず最後に本製品 の本体内へ転送します。転送方法には、コンソールポートを使ってRS-232Cで転送する方法と、10BASE-T を使ってネットワーク経由で転送する方法があります。転送方法については、42ページ「7.設定ファイルを転 送する」をお読みください。

# 設定のための画面構成と流れ





# 基本機能の設定について

基本機能の設定は、最初に本製品を導入するときに終わっています。すでに設定した基本設定を変更する必要 がある場合に選択してください。なお、基本機能の設定の詳しい説明については、「スタートガイド」をお読み ください。

## 基本設定を変更する場合

基本設定を変更する場合の流れについて説明します。

•	〈メインメニュー〉	画面で[基本設定]をクリ	リックすると、	〈接続回線の選択〉	画面が表示されます。
	🚂 Laneed ViA LOOP 設定ユー	ティリティ - 新しいファイルnvr			
	_	接続回線の選択			
	常時接続サービスを 契約している場合。 シ	WAN回線を選択してください。			
	<ul> <li>高速ディジタル専用線</li> <li>ISDN回線</li> <li>イヤルアップ</li> </ul>	○ 高速デジタル専用線 ○ 高速デジタル専用線 ○ ISDN回線			
	接続サービスを 契約している場合。				
		〈戻る(B) 次へ(N)〉 キャン	セルーーヘルプ		

このあとは、ウィザード形式になっていますので、画面のメッセージに従って設定をおこなってください。 詳しい説明が知りたいときは、「スタートガイド」をお読みください。



すべての設定が終わると、〈完了〉画面に設定内容が一覧で表示されます。

Maneed ViA LOOP 設定ユーティ)	/ティ - 新しいファイルハvr 図 完了
設定内容をもう一度 確認し、「完了」を クリックしてください。	全設定が終わりました。 完了木切少を押すとファイルに(保存されます。 設定内容: VAN 回線 : ISON 回線速度 : 64kbps VAN/クリフース IPアトレス :
〈戻	る(四) 完了 キャンセル ヘルブ
<ul> <li>売了 をク!</li> </ul>	リックして設定を保存してください。



ルータの拡張機能の設定をおこないます。これらは〈メイン設定メニュー〉(●P78)の[拡張設定]を選択することで表示される〈拡張設定メニュー〉画面から選択できます。

# バルク転送の設定

バルク転送とは回線使用率が設定値を超えた場合に、ISDN回線を2チャンネル(2B)使用して帯域を確保する 転送方法です。なお、バルク転送をおこなった場合、2Bの帯域を使用しますので、回線の通話料金も2倍かか ります。基本設定でバルク転送をオンにしていても、ここで設定しなければ有効にはなりません。画面の表示 方法は**ー**P78

Maneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新し バルク転送設定	ل 1771/Lnvr 🔀
バルク転送設定	
▶ ハルク東記送をする	
┌通信データ量の設定を行ってください。( 1 ~	~ 100 % )
✓ 送信データの回線使用率を使用する 送信データの回線使用率	▶ パッファ使用率を使用する パッファ使用率
開始: 90 🛨 %	開始: 90 📑 %
停止: 60 📑 %	停止: 60 芸 %
♥ 受信テ~タの回線使用率を使用する 受信テ~タの回線使用率	
開始: 90 📩 %	
停止: 60 🚍 %	
OK	キャンセル 道用(磁) ヘルプ

#### ●バルク転送をする

回線使用率が設定値を超えた場合に、ISDN回線を2チャンネル(2B)使ってデータのやり取りをします。

#### ●各使用率を設定する

バルク転送する条件とその開始および停止の%を設定します。条件としては、送信データの回線使用率、受信データの回線使用率、バッファ使用率の3つがあります。バルク転送したい条件に合わせて必要な項目をオンにしてください。オンにした項目では、開始および停止の%を設定します。「開始」の使用率は「停止」の使用率より大きな値となるように設定してください。オンにした項目の使用率が「開始」で指定した%を超えた時点で、バルク転送を開始します。また、「停止」で指定した%を切った時点で、バルク転送をやめ1Bで転送します。

# **ISDN関連の設定**

ISDNに関連する項目を設定できます。〈拡張設定メニュー〉で[ISDN関連の設定]をクリックすると、〈ISDN接続相手の設定〉画面が表示されます。画面の表示方法は◆P78

## ISDN接続相手の設定

ISDN接続相手を設定します。新規で追加したり、設定済みの接続相手を選択して、設定済みの内容を変更できます。

🌆 Laneed ViA LOOP 設定ユー	ティリティ - 新しいファイル	nvr		x
ISDN接続相手の設定 ISDN	その他			
ISDN接続相手の設定				
設定されているISDN接続相 最大20件までの設定が行う	手は、以下のとおりです はます。	t.		
接続相手の名前	ISDN番号	<u> </u>	著信時の認証方法	=
et el la	111100000		なし	
•				
erie (e) 1	(III) (III)	160.000	(Tet: (n))	
		9997703	編集(型	
	OK ++	・ンセル 道用		;

・設定済みの一覧が表示されます。表示される項目は、接続相手の名前、接続相手のISDN番号とサブアドレス、 接続相手からの着信時の認証方法、パスワード、連続接続時間の上限です。

#### ●設定画面のボタンの機能

新規追加(N)	ISDNの接続相手を追加します。このボタンをクリックすると〈ISDN接続相手の設定〉画面が表示されます。
変更( <u>U</u> )	一覧の中から設定を変更したい接続相手を選択してから、このボタンをクリックすると、〈ISDN接続相 手の設定〉画面が表示され、設定を変更できます。
削除( <u>D</u> )	一覧の接続相手を削除します。
リダイアル編集( <u>R</u> )	ISDN番号に電話をかけて話中だった場合に、別の番号にリダイヤルするための電話番号を設定できます。

## ISDN接続相手の新規追加または変更

新規道加心…」または、変更したい「接続相手の名前」を選択して 変更心…」をクリックすると、〈ISDN接続相手の設定〉画面が表示されます。必要な項目を新規入力または変更してください。変更した設定を有効にする には、 へん をクリックします。

ISDN接続相手の設定	 ≥ ≥
接続相手の設定を行ってください	.1 <sub>6</sub>
ISDN接続相手の設定	
接続相手の名前:	
接続相手のISDN 番号:	
<b>(</b>	)
著信時の認証方法:	72L 💌
<i>እ</i> °スワーኑ° :	
▶ 連続接続時間の上限を設	定する 🛛 📑 時間
	OK ++>セル

接続相手の名前	接続相手を識別するための任意の名前を入力します。
接続相手の ISDN番号	接続相手のISDN番号を20桁以内の数字で設定します。「.」「-」「*」「/」等の記号は使用できません。また、カッコや、ハイフンで区切らずに続けて入力してください。
サブアドレス	サブアドレスが必要な場合は19桁以内の数字で設定します。「,」「-」「*」「/」等の記号は使用できません。 また、カッコや、ハイフンで区切らずに続けて入力してください。
着信時の認証方法	なし: 認証方法を設定しません。 CHAP: 認証方法にCHAP認証を使用します。 PAP: 認証方法にPAP認証を使用します。
パスワード	着信時の認証方法でCHAPまたはPAPを選択した場合は、パスワードを設定します。
連続接続時間の 上限を設定する	ここで設定した時間以上ISDNに接続していると、自動的に接続を終了します。チェックボックスをオン にしたときだけ、設定時間が有効になります。



#### CHAP認証とPAP認証

CHAP認証はパスワードを暗号化して流し、接続相手に認証させて情報のやりとりをはじめます。PAP認証は パスワードを流し、接続相手に認証させて情報のやりとりをはじめます。パスワードは接続相手とあらかじめ 決めておく必要があります。接続相手と違うパスワードが設定されていると、接続できなくなります。

# リダイヤル編集

〈ISDN接続相手の設定〉画面にある <u>サヤアル編集(9.</u>) をクリックすると、リダイヤルの設定ができます。リダ イヤルとは、ISDN接続相手になんらかの理由で接続できなかった場合に、異なるISDN番号にかけ直す機能で す。ただし、認証に失敗した場合や網障害等では、リダイアル機能は働きません。ひとつの接続相手が複数の ISDN番号を持っている場合に有効な機能です。4件までのISDN接続相手に対して、それぞれ最大5件のISDN 番号を登録することができます。ただし同じISDN番号とサブアドレスの組み合わせを複数登録することはでき ません。

リダイアル編集	x
りダイアル編集	
4件までの接続相手に対して、	ISDN番号を最大5件まで設定できます。
ISDN番号の設定	
1:ISDN番号:	630000000
<del>ህ</del> ን ፖኮኒአ ፡	
2:ISDN番号:	
<del>ህ</del> ንアドレス :	
3:ISDN番号:	
<del>ህ</del> ንアドレス :	
4:ISDN番号:	
<del>ህ</del> ን ፖኮՆス ፡	
5:ISDN番号:	
<del>サ</del> フアドレス :	
	OK ++>tu

# ISDNのその他の設定

〈ISDN関連設定〉画面で【ISDNその他】タブを選択すると、ISDN回線に関連した設定がおこなえます。

レビ [LAND)ら受信したパヴァトにより自動に発明する]
▶ 着信時の発信者番号通知での認証を行う
▶ 編直の連続推続シタ煤能を使用する 連続接続許容時間: 12 💼 時間
✓ 発明的に無通信時間を監視して回線を切る: 00 1 秒 「 着信時に無通信時間を監視して回線を切る: 0 1 秒
通用(A)

#### ●LANから受信したパケットにより自動に発呼する

LANからISDN回線へ中継するデータが発生したとき、自動的にISDN回線に接続するかどうかを設定します。 ブラウザを起動したときに自動的にISDNへ接続したい場合にチェックボックスをオンにします。

#### ●着信時の発信者番号通知での認証を行う

発信者番号通知を利用して認証をおこなうかどうかを設定します。登録相手以外からの着信時にISDNを切断したい場合はオンにします。

#### ●装置の連続接続リミッタ機能を使用する

ISDN回線の連続接続時間を設定します。ここに設定した時間までISDN回線が接続したままの状態にある場合 は自動的にISDN回線を切断します。この機能を使用する場合は、チェックボックスをオンにし、許容時間を設 定してください。

#### ●発呼時に無通信時間を監視して回線を切る

本製品から発信したとき、一定時間通信がなかった場合に自動的にISDN回線を切断するように設定します。この機能を使用する場合は、チェックボックスをオンにし、許容時間(秒)を設定してください。

#### ●着信時に無通信時間を監視して回線を切る

本製品が着信したとき、一定時間通信がなかった場合に自動的にISDN回線を切断するように設定します。この 機能を使用する場合は、チェックボックスをオンにし、許容時間(秒)を設定してください。

# IPアドレスの設定

〈拡張設定メニュー〉(●P78)で[IPアドレス設定]をクリックすると、〈アドレスの設定〉画面が表示されます。 ここでは、IPアドレスに関連する事項を設定します。設定を変更した場合は、 適用④ をクリックして設定 を更新するか、 OK をクリックして設定を更新して、〈拡張設定メニュー〉画面に戻ります。

## アドレスの設定

ネットワーク構成に合わせて、各種IPアドレスおよびネットマスクを設定します。次ページ「構成別IPアドレ ス設定例」でルータを利用するケースに合わせたIPアドレスの設定例を説明しています。参考にしてください。

A Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しい7 アドルスの設定 接続相手の設定	71₺.nvr
アドレスの設定	
ルータのIPアドレスについて、接続相手から指定を 指定を受けたアドレスがない場合はNAT+を用い	受けたアドレスを入力してください。 てLANを構築することになります。
© 1197F1/2222U C 1197F1/22354J 1197F1/22 :	<ul> <li>■ 複載対相手接続差使用する</li> <li>ルー物のISDN上のアドレス</li> <li>IPアドレス:</li> <li>キットマスク:</li> </ul>
■ NAT+25使う ■P7トレス: 「〒 ●25 ● 「」「 ネットマスク: 「菜 戸窓 戸窓 」55	
ОК	キャンセル 適用(A) ヘルプ

#### ●IPアドレスなし

ダイヤルアップ接続などIPアドレスを必要としない場合に選択します。

#### ●IPアドレスあり

[IPアドレスあり]をオンにすると、「IPアドレス」と「ネットマスク」が設定できるようになります。

- ・ネットワーク接続サービス業者から提供されたIPアドレスがある場合は、提供されたIPアドレスでもっとも 若い番号を入力します。
- ・ネットワーク接続サービス業者以外と接続する場合は、IPアドレス、ネットマスクを入力します。このとき、 IPアドレスとネットマスクは、NAT+を使用する場合はWAN側のアドレスを、NAT+を使用しない場合は、 LAN側のアドレスを入力します。

#### ●NAT+を使う

[IPアドレスあり]をオンにし、[NAT+を使う]をオンにすると、「IPアドレス」と「ネットマスク」が設定できる ようになります。LAN側のIPアドレスとネットマスクを入力します。

#### ●複数相手接続を使用する

複数の相手と接続する場合に[複数相手接続を使用する]のチェックボックスをオンにすると、「IPアドレス」と 「ネットマスク」が設定できるようになります。[IPアドレスあり]をオンにし、[NAT+を使う]をオフにする場合 は、WAN側のIPアドレスとネットマスクを入力します。

# 接続相手の設定

〈接続相手の設定〉画面で接続相手を選択し、その接続相手のIPアドレスを設定します。変更した設定を有効 にするには、 をクリックします。接続相手の設定は[ISDN関連の設定]からおこないます。◆P84

<ul> <li></li></ul>	新しいファイルmwr 💌
接続相手の名前	IP7ト'レス
設定	
OK	通用( <u>A</u> ) へルブ

# 構成別IPアドレス設定例

ルータを利用するケースに合わせたIPアドレスの設定例を説明しています。参考にしてください。

ケースA: ダイヤルアップ端末型
192.52.150.1 255.255.255.0 サービスプロバイダ ISDN LAN
望Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しにファァイル.nvr アドレスの設定   接続相手の設定   アドレスの 設定
ルータのIPアドレスについて、接換相手から指定を受けたアドレスを入力してください。 指定を受けたアドレスがない場合はINAT・を用いてLANを構築することしております。
<ul> <li> <b>IP7ドレスオムし</b>         「         (戦戦相手接続を定用する         </li> </ul>
C IP7ドルスあり
??!????       ??!????
「「NAT+定使う 「P7トレス: 「192」「52」「150」「1
キットマスク : [265 [265 ]0
OK         キャンセル         適用(A)         ヘルプ

ケースB: OCNエコノミーなど常時接続型サービス	.(契約アドレスを使用しない場合)
●LANがすでに敷設されているとき	
契約IPアドレス 158.202.200.40 255.255.255.248 インターネット OCNネットワーク 常時接続	192.52.150.1 255.255.255.0 回線
▲ Loneed VIA LOOP 設定ユーティリティ - 新しんワライルハバ         ▼           アドレスの設定	
OK キャンセル 通用(A) ヘルブ	

- ケースB: OCNエコノミーなど常時接続型サービス(契約アドレスを使用する場合)
- ●LANを新規に導入するとき





ケースD: ISDNダイヤルアップ複数接続型
192.52.210.1         255.255.255.0         Image: state stat
<ul> <li>◆A装置の例</li> <li>▲ Compared Via LOOP 設定ユーライリティ - 新しいフィルルマー</li> <li>アレスの設定 1接線相手の設定</li> <li>ハークのIPT/L2/IC-2/ICT, 指線相手から指定を受けたアレンスを入力してください。</li></ul>
複数の相手と接続する場合は、【接続相手の設定】タブを選択します。一覧から接続相手を選択し 設定 をクリックすると、その接続相手のIPアドレスを設定できます。変更した設定を有効にするには OK をクリックします。 Guereed ViA LOOP 設定ユーティリティー新しいファイル.nvr アドレスの設定 選続相手の設定 接続相手の設定 接続相手の設定

OK

Γ

キャンセル 適用(益) ヘルブ

`**`∏**Tips

# IPアドレス変換の設定

〈拡張設定メニュー〉で[IPアドレス変換設定]をクリックすると、〈アドレス変換設定〉画面が表示されます。 ここでは、IPアドレス変換に関連する事項を設定します。設定を変更した場合は、 適用 をクリックして 設定を更新するか、 OK をクリックして設定を更新して、〈拡張設定メニュー〉画面に戻ります。

# アドレス変換設定

IPアドレス変換(NAT+)機能を使用する場合は、〈アドレス変換設定〉画面で【アドレス変換設定】タブを選択し、「アドレス変換機能を使用する」のチェックボックスをオンにします。

Maneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しいファイルnvr 🔀
アドルス変換設定 アドルス変換スタティック設定 NAT+ スタティック設定
アドレス変換設定
アドレス変換機能の設定を行ってください。
▶ アドレス変換機能を使用する
OK キャンセル 適用(金) ヘルプ

# アドレス変換スタティック設定

アドレス変換スタティックを設定する場合は、〈アドレス変換設定〉画面で【アドレス変換スタティック設定】 タブを選択し、新規追加または既存の設定を変更します。

🤤 Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ	- 新しいファイル.nvr	×
アトシス変換設定 アトシス変換スタティック	設定 NAT+ スタティック設定	
アドレス変換スタティック	,	
設定されているアドレス変換スタティックは LAN(別アドレス	よ、以下のとおりです。最大16件までの設定が行え:   WAN側フドレス	ます。 
		- 1
		- 1
<b>新規追加(<u>M</u>) 医更(<u>U</u>)</b>		
OK	キャンセル 適用(価)	ヘルプ

## アドレス変換スタティックの新規追加または変更

新規追加W…」または、変更したいアドレスを選択して 変更W…」をクリックすると、〈アドレス変換スタティック設定〉画面が表示されます。LAN側およびWAN側のIPアドレスを新規入力または変更してください。変更した設定を有効にするには、 OK をクリックします。

アドレス変換スタティック設定	x
アドレス変換	スタティック設定
LAN側アドレスと、WAN	側アドレスを設定してください。
アトレス変換スタティックの	の設定
LAN側アドレス:	
WAN(別アト・レス:	
	OK キャンセル

# NAT+スタティック設定

NAT+スタティックを使うとダイヤルアップ契約のようにWAN側IPアドレスがひとつしかない場合でも、 WAN側からLAN側に接続したサーバ等へのアクセスが可能になります。また、通常のIPアドレス変換の場合で もポート変換を使ってセキュリティを向上させることができます。NAT+スタティックの設定を追加、変更する には、【アドレス変換設定】タブで、「アドレス変換機能を使用する」のチェックボックスをオンにしている必 要があります。

Anneed ViA LOOP 設定 「アドレス変換設定」 アドレス	ミユーティリティ - 新し( 変換スタティック設定 ト	いファイル.nvr IAT+ スタティック設定		×
NAT+ スタティ	ック			
ポート番号まで含めたア	トレス変換スタティック設定	Eです。最大32件までの書 TwanfWIPト1-7	安定が行えます。	_
CONTRACT DA	1. 182	T THICK I DA		
新規追加( <u>N</u> )	変更(U)	₿余( <u>D</u> )		
	OK	キャンセル え	箇用( <u>A</u> ) へ)	レプ

#### NAT+スタティックの新規追加または変更

新規追加処..」または、変更したいアドレスを選択して 変更処...」をクリックすると、〈NAT+スタティック設定〉画面が表示されます。LAN側アドレス(プライベートアドレス)、LAN側ポート番号、WAN側アドレス (グローバルアドレス)もしくは自動をチェック、WAN側ポート番号を新規入力または変更してください。変更した設定を有効にするには、 のK のりックします。

NAT+ スタティック設定	X
NAT+ スタティック設	定
アドレス及びポート番号を変換しま	ŧ <del>j</del> .
- NAT+ スタティックの設定	
LAN側アドレス :	
LAN(則木°一卜番号:	
WAN側アトシス :	
WAN/肌术°一卜番号:	
	OK ++>セル

# ルート情報の設定

ルート情報で中継先アドレス、宛先アドレス、アドレスマスクを設定すると確実にデータを送信することができます。〈拡張設定メニュー〉で[ルート情報設定]をクリックすると、〈ルート情報設定〉画面が表示されます。 設定を変更した場合は、 通用④ をクリックして設定を更新するか、 C K をクリックして設定を更新して、〈拡張設定メニュー〉画面に戻ります。

## ルート情報設定

〈ルート情報設定〉画面には、すでに設定されているルート情報があれば、一覧で表示されています。一覧の 下部にあるボタンをクリックして、新規追加または既存の設定を変更します。

A Laneed ViA LOOP 設定ユ ルート情報設定	ーティリティ - 新しいファイルァ	Wr	×
ルート情報設定	2		
設定されているルード情報	ま以下のとおりです。最大3	2件まで設定が行えます。	alu bits
9875/P VX	71 03787	14710万	<u>&gt;ryoyie</u>
<b>新規追加(<u>N</u>)</b> 变	更(1)		
	OK ++	ンセル 適用(益)	ヘルプ

#### ルート情報の新規追加または変更

新規追加W→ または、変更したいルート情報を選択して 変更W→ をクリックすると、〈ルート情報設定〉の入力画面が表示されます。中継先IPアドレス、宛先アドレス、アドレスマスク、メトリック値を設定します。
WANインターフェースを使用する場合は、「WANインターフェースを指定する」のチェックボックスをオンにします。

lŀ−	卜情報設定					x
J	い情報設!	定				
л	ート情報の設定を行っ	てください。				
Г	ルート 情報					
	中維先IPアドレス:		 E WA	Nインターフェー	えを指定する	
	宛先アドレス:					
	ፖԻ՞レスマスク ፡		 			
	xhリッウ値:	16 🛖				
				~	J. 3. 1.4	
			0		キャンセル	

**Tips** 

メトリック値とは、あるネットワークからあるネットワークに到達するまでに、経由しなくてはならないルータの数です。例えば、ISDN回線を介した2台のルータとそれにつながるコンピュータがある場合、一方のルータ(ルータAとします)につながるコンピュータAから、もう一方のルータ(ルータBとします)につながるコンピュータBに到達するには、ルータAとルータBを経由しなくてはなりませんので、メトリック値は2になります。

# フィルタリングの設定

フィルタリングとは、送信されてくるデータを、中継したり遮断したりする機能のことです。本製品では、中 継用と遮断用の2種類のフィルタリングデータを設定できます。〈拡張設定メニュー〉で[フィルタリング設定] をクリックすると、〈フィルタリング設定中継〉画面が表示されます。中継および遮断では、設定内容をより簡 単にした「かんたん追加」があります。なお、設定を変更した場合は、 適用 をクリックして設定を更新 するか、 0K をクリックして設定を更新して、〈拡張設定メニュー〉画面に戻ります。

22[Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しいファイル.nvr × 中推 〕返時 〕 変明を契視   コーム は トリット ◇ テル ニー ( ート 41 / )
プイルアリング 言文      に      「
新規追加(型
OK キャンセル 適用(金 ヘルプ



本製品では、設定ユーティリティで設定した場合、自動でポート番号の137~139発/宛のパケット(NetBIOS over TCP/IP)を切断するエントリーが追加されます。

# かんたん追加について

中継用と遮断用のフィルタリング設定には、 かんたん追加()というボタンがあります。これをクリックすると、 最小限の設定でフィルタリングデータの設定ができます。「かんたん追加」で設定するのは、送信元アドレスと そのアドレスマスク、宛先アドレスとそのアドレスマスク、アプリケーションです。特定のアドレスを指定せ ずにすべての値を選択する場合は、「すべて」のチェックボックスをオンにします。

フィルタリングデーク設定 フィルタリンク゛テ゛ータ	設定	×
フィルタリンクデータの設定を行っ	ってください。	
- フィルタリンケティーター		
送信元アドレス:		□ すべて
ፖኑ ሁスマスク ፡		
宛先アドルス:		┌ すべて
ፖドレスマスタ ፡		
アフツケーション:	teinet 💌	
	OK	キャンセル

# フィルタリング設定(中継)

中継用のフィルタリングデータを設定する場合は、〈フィルタリング設定〉画面で【中継】タブを選択し、新規 追加または既存の設定を変更します。最大32件まで設定できます。

🌆 Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しいファイル.nvr 🔽
中維   遮断   発呼契機
フィルタリング設定(中継)
設定されているフィルタリンクデータは、以下のとおりです。最大32件まで設定が行えます。
送信元アトドレス アトドレスマスク ホポート範囲 宛先アトドレス アトドレスマスク
新規追加(1)
OK キャンセル 適用④ ヘルプ

#### フィルタリングデータ設定の新規追加または変更

新規道加必」または、変更したいアドレスを選択して 変更処」をクリックすると、〈フィルタリングデータ設定〉画面が表示されます。フィルタリングするプロトコル、受信および送信インターフェース、送信元と宛先のフィルタリングするアドレス、アドレスマスク、ポート番号を設定します。送信元および宛先の「すべて」のチェックボックスをオンにすると、それぞれ該当するアドレスまたはポート番号をすべてフィルタリングします。新規追加または設定を変更した場合は、 ○K をクリックして設定を更新してください。

74l	別ンクテー始設定		X
7	えルタリック	「データ設定	
1	107727	7 7622	
7.	ィルタリングデータの言	設定を行ってください。	
	フィルタリンクデーター		
	շրեղի։ 💿		
	0	その他 (プロトコル番号を入れてください [ ]	
	受信化物ェース	: 「LAN 「専用線 「ISDN	
	送信インタフェース	: 「LAN 「専用線 「ISDN	
	送信元:	アドレス	
		71502729	
		ポート番号 🛛 ~ 🔽 ビ すべて	
	宛先:	アドレス	
		דר לגדגלי 🔽	
		ホート番号 🛛 ~ 🗖 すべて	
		- OK HEVEN	

# フィルタリング設定(遮断)

遮断用のフィルタリングデータを設定する場合は、〈フィルタリング設定〉画面で【遮断】タブを選択し、新規 追加または既存の設定を変更します。最大16件まで設定できます。

Laneed VIA LOOP 設定ユーティリティ - 新しんパライルnwr     中継 遮断 発呼裂機	×
フィルタリング設定(遮断)	
設定されているフィルタリンクラーシータは、以下のとおりです。最大16件まで設定が行えます。 「迷療売れているフィルタリンクラーシータは、以下のとおりです。最大16件まで設定が行えます。	
	71
新規追加(M) (英更(0) (前所合の) かんたん追加(E)	
OK         キャンセル         通用(金)         へ、	レプ

## フィルタリングデータ設定の新規追加または変更

新規追加W...」または、変更したいアドレスを選択して 変更W...」をクリックすると、〈フィルタリングデータ設定〉画面が表示されます。フィルタリング設定(中継)と同じ要領で設定します。(←P98)

# フィルタリング設定(発呼契機)

発呼契機用のフィルタリングデータを設定する場合は、〈フィルタリング設定〉画面で【発呼契機】タブを選択し、新 規追加または既存の設定を変更します。最大4件まで設定できます。

発呼契機フィルタリングとは、自動発呼の元となるパケットを指定することで発呼をコントロールする機能です。 発呼契機フィルタを設定すると、このフィルタリングエントリと合致したパケットを受信したときのみ発呼をおこな います。フィルタリングエントリに合致しないパケットはすべて破棄されます。また、発呼契機フィルタリングとし て登録された各エントリは、接続後のフィルタリング動作には一切影響しません。

と Laneed VIA LOOP 設定ユーティリティ - 新しいファイルnwr X 中継 「遊断 発呼契機
フィルタリング設定(発呼契機)
設定されているフィルタソンケテーヤれよ以下のう動」です。 この条件に合ったパウットを受信するとISDN回線を発呼します。最大4件まで設定が行えます。 
〕送信元アドレス   アドレスマスク   ポート範囲   宛先アドレス   アドレスマスク
x
OK キャンセル 通用(G) ヘルプ



・自動発呼とは、LANからISDN回線の相手側に送るべきパケットを受信した場合、自動でその相手へ接続をおこないます。

・発呼契機フィルタリングを使用するためには、自動発呼モードにしておく必要があります。自動発呼を抑止 した場合、発呼契機フィルタリングは機能しません。

#### フィルタリングデータ設定の新規追加または変更

新規追加処...」または、変更したいアドレスを選択して 変更ω...」をクリックすると、〈フィルタリングデータ設定〉画面が表示されます。フィルタリング設定(中継)と同じ要領で設定します。(←P98)

7711/5	ミンケデータ設定	Ē					x
7	イルタリンク	「データ言	殳定				
74/  _ <sup>∯</sup>	ルタリンケテ <sup>、</sup> ータの 絶呼契機フィルタ	)設定を行って< リングデーター	(ださい。				
7	י אבלמ"ל ( כ	) 副 0 <sup>-</sup> ) その他 (	TCP/UDP プロトコル番号	C TCP を入れてくだ	C UDP ເດ ອີເນ []	° ICMP	
ĵ	送信元:	アト・レス アト・レスマスク ポート番号			- 「すべて - 「すべて	:	
3	宛先:	アト・レス アト・レスマスク ポート番号			「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」		
					ок	キャンセル	

# DHCPの設定

DHCPサーバの機能をどのように利用するかを設定します。

#### DHCP設定

DHCPの設定により、本製品のDHCPサーバ機能を使って、LAN側に接続されたDHCPクライアントに自動的にIPアドレスを割り当てことができます。

🤷 Laneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 新しいファイル.nvr 🛛
DHCP設定 DHCPサーバスゲィック設定
DHCP設定
DHOPの設定を行ってください。
✓ 本装置のDHCPサーバを使用する 拡張通知項目
▶ デフォルトケートウェイの)通知をする
□ ドメイン名称の通知をする
ドメウ名称:
「 DNSサーハ'のアドレスを通知する
DNSサーバのアドレス: 0 <u>0 0</u>
<mark>0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 </mark>
■ WINSサーバのアドレスを通知する
WINSサーバのアドレス: 0 0 0 0
0 <u>, 0,</u>
OK 適用( <u>A</u> )へルプ

#### ●デフォルトゲートウェイの通知をする

デフォルトゲートウェイとは、端末が流れてくるRIP情報からは認識できないネットワークへデータを送信する 場合に、そのデータを送信するルータのことです。インターネットに接続する場合に必要となります。

#### ●ドメイン名称の通知をする

ドメイン名称を通知したいときはチェックボックスをオンにし、ドメイン名称を入力します。ドメイン名称は 半角40文字以内の英数字(英字の場合、大文字・小文字が区別されます)で設定してください。

#### ●DNSサーバのアドレス通知をする

ドメイン名称を通知したいときはチェックボックスをオンにし、DNSサーバのアドレスを入力します。

#### ●WINSサーバの通知をする

WINSサーバを通知したいときはチェックボックスをオンにし、WINSサーバのアドレスを入力します。

# ◆Tips 本製品が使用するIPアドレスについて

- ・本製品が使用するIPアドレスは[基本設定]の[LANインターフェースの設定]によって設定されたIPアドレスを 使用します。
- ・契約IPアドレスを使用し、そのホスト部をOとした場合、そのネットワークのアドレスのもっとも若い番号 (XXX.XXX.XXX.1)を使用します。

#### 本製品が端末に割り当てるIPアドレスについて

 ・本製品のLAN側のネットワークにおいて、もっとも若いアドレスから、使用可能なアドレスを順に割り当て ます。また、DHCPクライアントから、特定のアドレスの要求があった場合、可能であれば、そのアドレス を割り当てます。

# DHCPサーバスタティック設定

本製品が端末に割り当てるIPアドレスを、MACアドレスと共に関連付けて、固定のIPアドレスを配布する機能です。ただし、そのIPアドレスが同じLANにつながれている他の機器に使用されていた場合や、そのMACアドレスを持つ機器が異なるIPアドレスを使用していた場合は、その設定は無効となります。この場合、その設定は再起動後に有効となります。

Maneed ViA LOOP 設定ユーティリティ - 非 DHCP設定 DHCPサーバ スタティック設定	折しいファイル.nvr	×
DHCPサーバ スタティック		
設定されているMACアトシスとIPアトシスの対 最大16件までの設定が行えます。	対応は以下のとおりです。	
MAC71512	IP7ト <sup>®</sup> レス	
<b>新規追加(<u>10</u></b> ) 変更( <u>1</u> )	前序余( <u>D</u> )	
OK	<u>キャンセル</u> 適用( <u>A</u> )	ヘルプ

#### DHCPサーバスタティック設定の新規追加または変更

新規追加処...」または、変更したいアドレスを選択して 変更処...」をクリックすると、〈DHCPサーバ スタティック設定〉画面が表示されます。新規追加または変更したいMACアドレス、IPアドレスを入力します。新規 追加または設定を変更した場合は、 ○K をクリックして設定を更新してください。

DHCPサーハ、スタティック影	定 🗵
DHCPサーハ	スタティック設定
MACアドレスに対応し	たIPアドレスを配布します。
DHCPサーハ・スタティー	かの設定
MACアドレス ፡	
IPアドレス:	
	OK ++>セル

5

〈メイン設定メニュー〉画面で[設定ファイル情報]を選択すると、ルータ機能の設定情報が表示されます。〈メ イン設定メニュー〉画面の表示方法は78ページ「メイン設定メニュー画面を表示する」をお読みください。

Educed All FOOL SYET 24224	r - 新しいファイル.nvr	×
	メイン設定メニュー	
	[ 基本設定]	
	拡張設定	
PLE LE	設定ファイル情報	
VIA LOOPの 各種設定を行います。		
選んでくださいね。		
	戻る(日) ヘルフ*	1
	. ↓	
Maneed ViA LOOP 設定ユーティリティ	「一新しいファイル.nvr」	VI
		-
設定ファイル情報の表	<b>表示</b>	<u> </u>
設定ファイル情報の表	え示	-
設定ファイル情報の表 以下のように設定されています。	表示 	<u>_</u>
設定ファイル情報の表 以下のように設定されています。 「MN 回線: ISDN 回線速度: S4kps 契約UPT 12	表示 	_
設定ファイル情報の表 以下のようご該定されています。 WAN 回線: ISON 回該通道: 444bos 1724/9-75*いよ: 1	₹⊼ 	
設定ファイル情報の表 以下のように設定されています。 WAN 回線: ISON 回線速度: 644bps 契約177-12 1724/07-73 WAN(77-7 1721/07-7 1721/07-7 185.044	え示 ■ ■ ■	
設定ファイル情報の表 以下のように設定されています。 WAN 回線: ISON 回線運: F44cbes 契約17P+12, 124AP-57P-12, 124AP-57P-12, WAN 57P-51 1070-12, UAN 54-07-13 1070-14,	表示 	
設定ファイレ/青報の表 以下のように設定されています。 WAN 回線: ISSN 回線理E: N4Abps アパパントント マンパントント ロメリカントントン ロメリカントントン ロメリカントントン ロメリカントントン ロメリカントントン ロメリカントントン ロメリカントントン ロメリカントントントン ロメリカントントントントントントント ロメリカントントントントントントントントントントントントントントントントントントント	表示	
設定ファイル情報の表 以下のように設定されています。 WAN 回線: ISDN 回線速度: HALDOS 2007年7月17日 1074-7月17日、1000年1000 1074-7月17日、1000年1000年 1074-7月17日、1000年 1074-7月17日、1000年 1070年7月17日 1070年7月17日17月17日	え示 ▲ (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
	え示 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	
	表示 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	
設定ファイル情報のあ 以下のように設定されています。 WAN 回線: ISON 回線運貨: F44cbrs VAN IPN-10, IEA-10- 2007からう: IEA-10- 2007からう: IEA-10- 2007からう: IEA-10- 2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10- 10-2007からう: IEA-10-2007 IEA-10-2007からう: IEA-10-2007 IEA-10-2007からう: IEA-10-2007 IEA-10-2007からう: IEA-10-2007 IEA-10-2007からう: IEA-10-2007 IEA-1		

設定済みのコンフィグレーションパスワードまたはログインパスワードを変更できます。



· 〈変更パスワードの選択〉画面が表示されます。



3	旧パスワード、	新パスワード、	パスワードの再入力の順で	<b>パスワードを入力します</b> 。

, <b></b>	
	装置のコンフィグルーション用パスワードの設定をしてください。
変更したパスワードは マニュアル等に メモしておいて くださいね。	旧パス7-ド:
A CO	新パズワード: パズワードの再入力:
	戻5個) 売了 キャンセル ヘルブ



**4** 入力が終わったら、 <u>売7</u> をクリックします。

・正しく設定できれば、〈メイン設定メニュー〉画面に戻ります。

・間違ったパスワードを入力すると、メッセージが表示されます。再入力してください。
# Appendix

付録では、コマンドでの設定方法の概要と、ViA LOOPに関する細かな事項を説明 しています。必要に応じてお読みください。

付

録

1.	コマンドを利用した設定について
2.	設定スイッチについて
З.	LED点灯状態の見かた・・・・・113
4.	コンソールインターフェースの仕様
5.	サポートサービスについて
6.	基本仕様 · · · · · · · · · · · · 116
	索 引

コマンドを利用した設定について

本製品のアナログ通信機能およびルータ機能の設定は、telnetやコンソールを利用してコマンドで設定することも可能です。コマンドによる設定は、コンピュータに関して十分な知識を必要とします。コマンドの使いかたをご理解いただいた上でご利用ください。

### telnetを利用する場合

telnetを利用してアナログ通信機能およびルータ機能をコマンドで設定します。コマンド自体の説明については、付属のCD-ROMにあるhtml版のコマンドリファレンスを、インターネットブラウザを利用してご覧ください。ここでは、例としてMS-DOSからtelnetを利用する方法を説明します。



MS-DOS画面からtelnetを起動してログインします。

C:¥WINDOWS>telnet 192.52.150.1

1

※本製品のLAN側IPアドレスを 192.52.150.1に設定した場合

VIALOOP6010 Login password:

#### 2 ログインパスワードを入力し、 Enter を押します。

VIALOOP6010

Login password:

・入力したパスワードは表示されません。カーソルも移動しません。 ・はじめてログインしたときは、[Enter]だけを押します。

**資Tips** はじめての方は、必ずこのあと"password"コマンドを使ってコンフィグレーションパスワードを設定してくだ さい。

#### **3** プロンプトが表示され、コマンド入力待ち状態になります。

#

●このあとは、コマンドリファレンスを参考に、必要なコマンドを設定します。

## コンソールポートを利用する場合

本製品のコンソールポートを利用してアナログ通信機能およびルータ機能をコマンドで設定します。コマンド 自体の説明については、付属のCD-ROMにあるhtml版のコマンドリファレンスを、インターネットブラウザを 利用してご覧ください。

#### 準備するもの

#### ●RS-232Cケーブル(インターリンクケーブル)

コンソールポートとコンピュータを接続するRS-232Cケーブルをご用意ください。弊社にも対応製品がありま す。 **●**P114

#### ●ターミナルソフト

ターミナルソフトをご用意ください。Windows95には、標準で「ハイパーターミナル」というターミナルソ フトが付属します。その他のターミナルソフトを用意する場合は次の条件を満たしているものを用意してくだ さい。

通信ポート	COMポートが選択可能なもの
回線速度	9600bps
データ長	8ビット
パリティ	ノンパリティ
フロー制御	Xon/Xoff
入力文字	半角英数記号のみ

#### コマンド画面への操作手順

【】【スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[ハイパーターミナル]を選択します。



**2** Hypertrm.exeをダブルクリックし、ハイパーターミナルを起動します。

📾 HyperTerminal				×
」ファイル( <u>F</u> ) 編集(	〕 表示(⊻	) 移動(@) お気	1:279 <u>a</u> ) ~1/:+ 【	Ð
⊹• →• ि	X D	$\mathbb{B} \mathfrak{V} $	( 🖆 🔳 •	
名前	サイズ	ファイルの種類	更新日時	
Noticons.dll	22KB	ダイナミックリンク ライフ・	列 96/09/05 11:11	
No. Htm.jis.dll	9KB	ダイナミックリンク ライブ	列 96/09/05 11:11	
Nypertrm.dll	325KB	ダイナミックリンク ライブ・	列 96/09/05 11:11	
Hypertrm.exe	6KB	アフリケーション	96/09/05 11:11	
1 個のオブジェクトを選	択	🔄 マイ コンビ	1-9	

・〈接続の設定〉画面が表示されます。





- ·com1ポートへ接続する場合は、「Com1へダイレクト」を選択します。
- ・〈プロパティ〉画面が表示されます。



- ●下記の条件を設定してください。
- ・ビット/秒:9600・データビット:8
- ・パリティ:なし ・ストップビット:1
- ・フロー制御:Xon/Xoff



6 〈新しい接続〉画面が表示されます。

参新しい接続 - ハイ ファイル(E) 編集(E)	パー ターミナル 表示(⊻) 通信	(C) 転送(T)	∿ルフ <u>゚(H</u> )					
	自動検出	目動検出	SCROLL	CAPS	NUM	++7°F+	「ED版JII-	

このあとは、コマンドリファレンスを参考に、必要なコマンドを設定します。



本製品の底面には、ハードウェア的に設定を変更できるディップスイッチがあります。



イラストの例



#### ●終端抵抗のあり/なしの設定

	終端抵抗あり(ON, ON)	O N 1 2	終端抵抗なし(OFF, OFF)
--	----------------	------------	------------------

#### ●初期化スイッチ(本製品に記憶されている設定を工場出荷時の状態に戻します)

 4 初期化する(ON)	4	初期化しない(OFF)
-----------------	---	-------------

●省電力モード

	利用する(ON)		利用しない(OFF)
--	----------	--	------------

#### ●リモートアクセスの禁止

禁止する(ON)	6	禁止しない(OFF)
----------	---	------------

※3,7,8は未使用なので変更しないでください。

本製品の前面にあるLEDの点灯状態を見ることで、本製品の動作状態を確認することができます。

LEDランプ名							++ ~~
Power	Check	Ready	ISDN	LAN	TEL	1人 悲	
×	×	×	×	×	×	電源が切れてい ます。	電源プラグを正しくACコンセントに差し込んでく ださい。
点灯	点灯	点滅	×	×	×	ファームウェアが 起動できません。	弊社サポートセンターへご連絡ください。
点灯	点灯	×	×	×	×	ハードウェア診断 エラーです。	弊社サポートセンターへご連絡ください。
点灯	点滅	点灯	×	_	_	ISDN/HDSの異 常です。	「データ通信時のエラーメッセージ」を確認してく ださい。相手ごとに指定した課金リミッタが作動し ている可能性があります。llogコマンドで課金リミ ッタを解除します。また、ご利用のネットワークに 異常がないかを確認してください。
点灯	×	点灯	_	×	_	接続している端 末/HUBの異常 です。	端末/HUBの電源を入れてください。10BASE-T ケーブルを確認してください。HUB/TERMスイッ チを確認してください。
点灯	点灯	点灯	点灯	×	×	課金リミッタが作 動しています。	ISDNが連続して長時間接続されていたので、 ISDNの回線を切断するために、本製品の動作を 停止しています。本製品を動作させるには、電源 をオン/オフします。また、ご利用のネットワークに 異常がないかを確認してください。

×:消灯状態です。

 $\sum_{i=1}^{n}$ 

--:接続状態によって、点灯、点滅、消灯します。



本製品とコンソールポートを接続するために必要なRS-232Cケーブルの配線は次のようになっています。





■弊社でも下記のRS-232Cケーブルを用意しています。

・インターリンク対応RS-232Cケーブル(リバース)
D-Sub9ピン(メス)⇔D-Sub9ピン(メス) 弊社型番:C232R-S1.5(1.5m), C232R-S3.0(3.0m)

## サポート・サービスについて

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。また、FAX情報によるサービス、ネット上によるオンラインサービスも提供しています。なお、サポートセンターでサービスを受けるために、あらかじめ本製品に添付されているユーザ登録はがきをご投函くださいますようにお願いいたします。修理品の送り先については、00ページをご覧ください。

#### ●ラニード・サポートセンター

#### TEL: 03-3444-5571 FAX: 03-3444-8205

受付時間:月~金曜日 10:00~12:00 13:00~17:00 (夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます) ※FAXによる受信は24時間行っております。

#### ●インターネット

http://www.elecom-laneed.com

#### ●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。 ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

#### 電話番号

東	京:03-3940-6000	大	阪:06-455-6000
名古	5屋:052-453-6000	福	岡:092-482-6000
札	幌:011-210-6000	仙	台:022-268-6000
広	島:082-223-6000		

#### ●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次のことを確認してください。

- ・使用回線(ISDN・専用線)
- ・おもなネットワーク構成
- ・具体的な現象 事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

	項目	仕様			
WANイン	ターフェース	高速ディジタル専用線I430 64/128kbps ISDN基本インターフェース(2B+D)、回線交換モード PIAFS			
LANインターフェース		10BASE-T×1、RJ45コネクタ、HUB-TERM切替スイッチあり			
アナログポ	- <b>ト</b>	2ポート(TEL1/TEL2)			
シリアルイ	ンターフェース	極性反転あり、6ピンモジュラージャック			
o (T	内蔵	IP			
S/I 中継機能	サポートプロトコル	RIP、スタティック			
1 1 1 1 2 1 2	ルーティングプロトコル	対応(VLSM)			
WAN側プ	ロトコル	PPP			
データ圧縮	ł	Stacker LZS, VJ compress			
アドレス変	奥	NAT+, NATスタティック, NAT+スタティック			
DHCPサー	-バ	対応			
ISDN接続	契機	トラフィック、手動			
ISDN複数	接続	最大20か所(同時2か所接続)			
トラフィック	7分散	MP, BACP			
モバイル通	信	PIAFS、α-DATA対応			
コールバッ	ク	CBCP/無課金			
リダイヤル	リスト	対応(1 プロバイダにつき5電話番号を登録可能)			
パケットフィ	ィルタリング	アドレス、プロトコル、ポート番号、イクーフェース			
保守機能		telnetサーバ、FTPサーバ、 ping、 Trace Route			
セキュリティ	ſ	発信者番号通知、PAP、CHRP			
課金監視機	能	相手連続リミッタ、装置連続リミッタ			
表示		LEDランプ(Power, Check, Ready, ISDN, LAN, TEL1, TEL2)			
外形寸法(r	nm)	幅180×奥行130×高さ68			
重量		約0.6kg			
電源		内蔵、AC100V(50/60Hz)			
消費電力		7W以下			
設定		Windows98/95/NT4.0(GUI)、telnet/ハイパーターミナル(コマンド)、 電話機(アナログ通信機能の設定のみ)			
おもな付属品		RJ45ケーブル、RJ11ケーブル、設定用CD-ROM、フロッピーディスク、マニュアル			

#### アルファベット

10BASE-T ······	18
10BASE-T転送の設定 ······	42
СНАР · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	85
DHCPサーバスタティック ·····	102
DHCPの設定 ······	101
FAX無鳴動着信 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
FAX無鳴動着信の設定 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	60
HLC	29
INSなりわけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
INSボイスワープ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
IPアドレス ······	
IPアドレス変換設定 ······	93
ISDN関連の設定 ······	84
ISDN接続相手の設定 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	84
ISDNダイヤルアップ1対1型・・・・・・・・・	74
ISDNダイヤルアップ端末型 ······	72
ISDNダイヤルアップ複数相手接続型・・・・・・・・	76
LEDの点灯状態 ·····	113
NAT+ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	88
NAT+スタティック設定 ·····	95
PAP	85
RS-232C	18
RS-232C転送 ······	44
TEL1(2)ポートの設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
telnetを利用する・・・・・	108

#### 

#### サ 行

サブアドレス・・・・・・・・・・・・・・・・・・32, 55. 85
サポート・サービスについて・・・・・・・・・・・・・・115
三者通話 ••••••67
識別着信 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
自動発呼 ······87
常時接続型サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
設定内容を保存する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
設定情報ファイルを見る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
設定スイッチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
設定ファイルの転送 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
設定ユーティリティの起動 ・・・・・・・・・・・・・20
切断音制御 ・・・・・30, 59

#### ア行

アドレス変換スタティック設定94
アドレ変換設定
アナログ通信機能一覧・・・・・8
アナログ通信機能の内容
アナログポート設定ユーティリティ
暗証番号 ······36
応用機能の設定
追っかけ転送
追っかけ転送先番号
追っかけ転送を設定する

カ	行

拡張機能の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	83
かんたん追加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	··97
機器種別 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	9, 56
基本機能の設定	82

タ 行
短縮ダイヤルで電話をかける
短縮ダイヤルの登録40,49
ダイヤルQ2パスワード機能 ······69
ダイヤルイン
ダイヤル完了タイマ
着信許可
着信禁止
着信種別 · · · · · · · · 23, 53
着信転送 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
着信転送(暗証番号の登録)
着信転送(有効/無効の設定)
着信転送(着信転送の登録)
着信転送(転送トーキの設定)
着信転送(ナンバーディスプレイの使用有無の設定)・・・49
着信転送(呼出ベル回数の設定)51
着信転送解除用暗証番号 ······36
着信転送先番号 ······34
着信転送先の登録
着信転送設定用暗証番号 ······36

中継機能 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
中継許可指定 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
追加呼出遅延(ベル回数)
通信ポート ・・・・・45
通話時のボリューム調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・57
通話中機器移動 ······70
通話中着信許可 ·····23
通話中追加呼出許可 ·····23
通話中転送66
転送先トーキ ・・・・・35
転送トーキ
電話機からの設定 ・・・・・48
電話を受ける65
電話をかける63

	ナ 行
I	内線呼出ベル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23, 59
	なりわけサービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・.70
	内線で話す ・・・・・・64
	ナンバーディスプレイ ・・・・・・・・・・・・・・・・26, 49
	ナンバーディスプレイの使用有無の設定・・・・・・・49

発信者番号通知 ·····24, 29, 54
発信者番号優先着信 ·····24, 61
バルク転送の設定83
パスワードの変更・・・・・104
フィルタリング設定(遮断)
フィルタリング設定(中継)
フィルタリング設定(発呼契機)100
フィルタリングの設定
複数相手先接続 ······88
フッキング・・・・・・30, 58
フッキング代用30
フリー転送
ベル周波数の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・32, 61
ボリューム調整

#### マ・ヤ 行

無通信時間の監視	7
メイン設定メニュー	8

メトリック値	• • •	• •	·	•	• •	•	•	•	•	•	•		•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	·	• •	. 9	96	3
呼出ベル回数								•	•		•			•	• •			•		•		•	•					- 3	86	3

ラ 行	
	1
リダイヤル編集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86	3
ルータ機能のおもな内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
ルート情報の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96	3
連続リミッタ接続機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87	7

#### ISDNルータ **VIA**LOOP6010 ユーザーズマニュアル 発行 エレコム株式会社 1998年7月28日 第1版



# Laneed ELECOM